

VE2-174



\*1200700358001\*

日系アメリカ人  
— ハワイの —





編集 岩波書店編集部  
写真 岩波映画製作所



バザーでおむすびをつくるお婆さん

はじめに  
明治のはじめから、ハワイへ渡った日本人の移民の数は十萬を下らない。その一部はさらに大陸へ渡り、また日本へ帰ったものもあったが、大半の人々はハワイの各島に生活の根を下した。今日、ハワイには四世代、二十萬の日系人が住み、総人口の四割を占める一大勢力になっているが、その生活の内情は複雑である。いつまでも故国への郷愁をたちきれずにいる一世、アメリカの国籍をもち英語を母国語とする二、三世。一つの言語、二つの風俗習慣のからみあいは、世代間の矛盾として日常生活の端々にあらわれている。この本の写真は一九五五年夏、マウイ島を訪れた「カメラマン」が、短い期間にとらえた記録であるが、その特殊な生活をよくとらえていると思う。

目次

二世紀の歴史..... 2	子供たちの話..... 39
日本の香り..... 23	日系人の生活..... 45

定価100円 1956年8月25日発行 © 発行者 岩波雄二郎 印刷者 米屋勇 印刷所 東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社 製本所 永井製本所 発行所 東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3 株式会社岩波書店

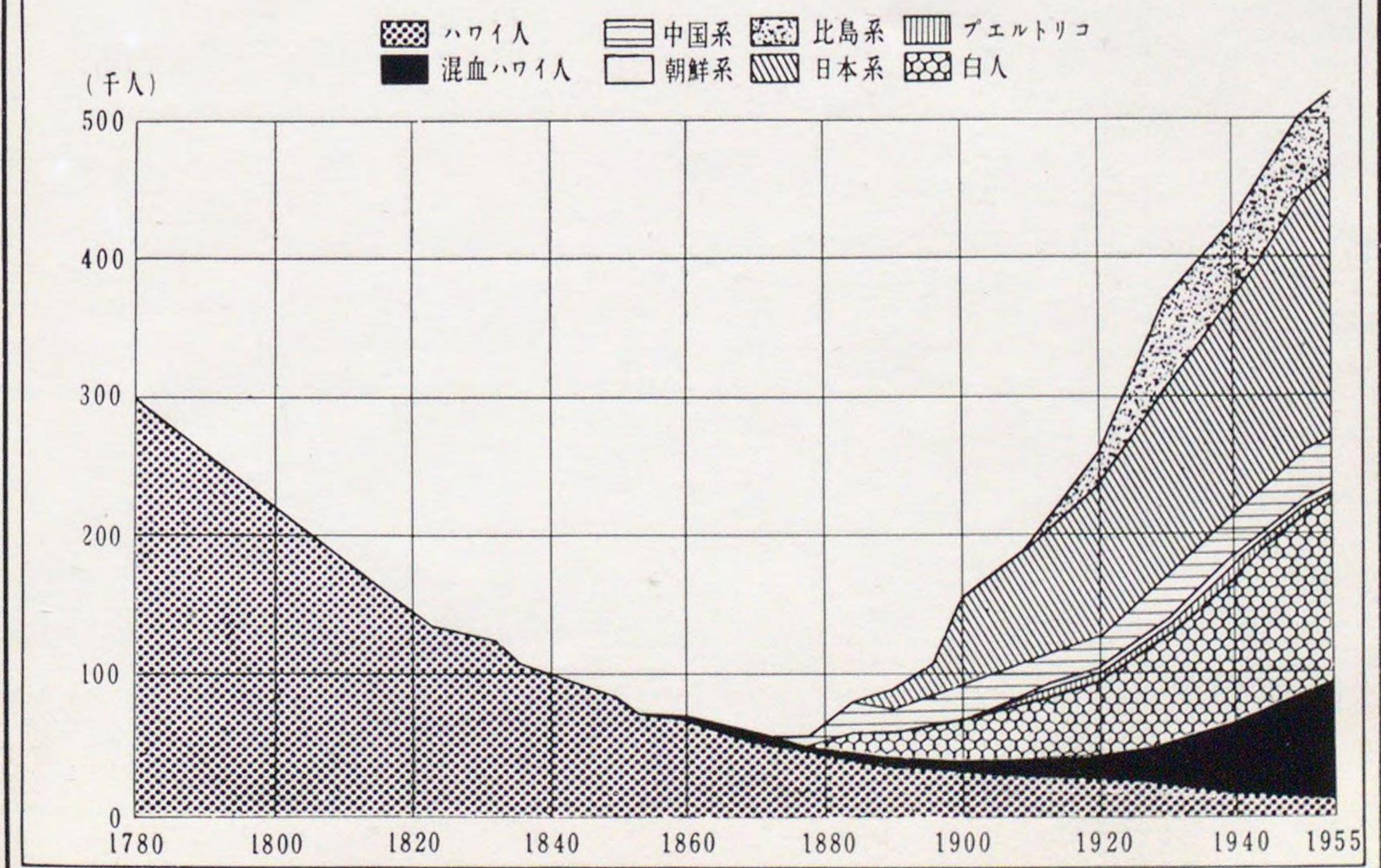
VE2

174

ハワイ群島略図



ハワイの人口 (1780~1955)



86W64414





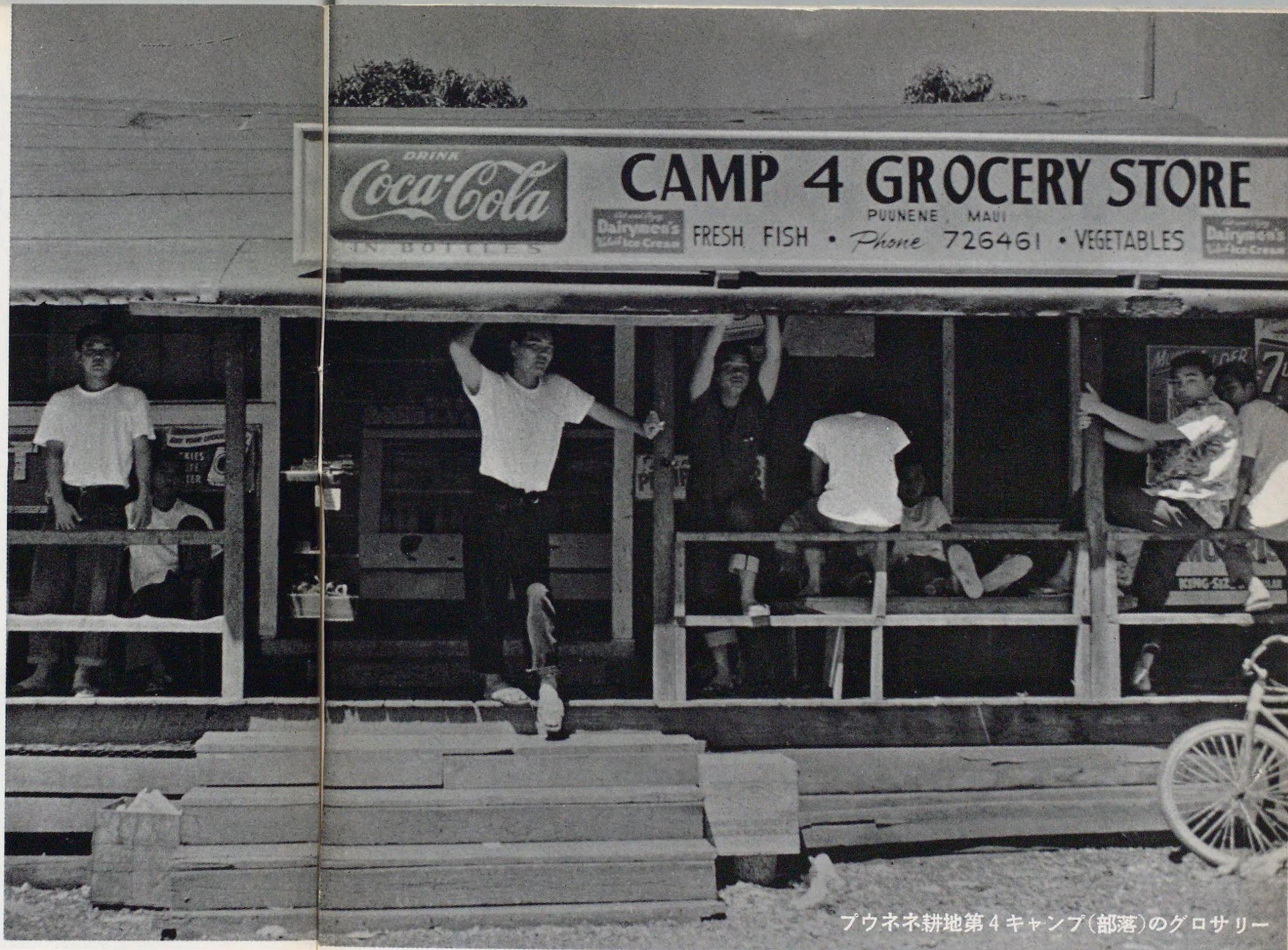
カフルイの商店街



雑貨店



左はマーケットを経営する二世



プウネネ耕地第4キャンプ(部落)のグロサリー

今日のハワイをクックは恐らく想像することもできなかったに違いない。群島は統一され、長い王制と短い共和制を経て一八九八年合衆国に合併されたハワイは、今日、砂糖、パイナップルの産地として、太平洋の中継地として、経済的にも政治的にもまた軍事的にも極めて重要な土地になっている。

### 二世紀の歴史

一七七八年、キャプテン・クックが初めてハワイの島々を発見したとき、ここはまだまったく未開の土地であった。島ごとに酋長が居り、荒地のところどころにはサトウキビが自生していた。そして、クックはここで、ある土人の取引に失敗して敢えない最期を遂げてしまったのである。それから二世紀



中国系一世の苗売り





ブックストアで



生地屋で



日系人の経営が多い美容院



カフェで働く二世



レストランで

人種のルツボ

総面積がわが国の四国よりやや狭いこの島は「人種のルツボ」という言葉が実にぴったりとあてはまる。総人口は四八万。その中で一ばん多い日本人をはじめ、比島人、中国人、朝鮮人、プエルトリコ人、いろいろな白人、それにハワイの原住民、さらにそのあらゆる混血。―そして、それに対応するあ

らゆる風俗、言語、宗教。文化人類学者のメッカだといわれるこの特殊な社会を作りだしたのは、ここ一世紀あまりのハワイ糖業の発達である。前世紀の中頃から急速に増大した甘蔗耕地の労働需要が、世界中から人間をかき集めたのである。一八八〇年から七〇年間にその人口は六倍にふえたのである。





値段は本国より1~2割高い



グロサリーの片隅



三世？ 四世？

以後は毎年契約労働の移住が続き、また移民会社の手で集団移住が行われて、一九〇八年に移民が禁止されたとき、日系人はハワイでの一大勢力になっていた。他人種に比べて日系人が栄えたのは、女の移民が多く、家族を営むものが多かったからだというが、ハワイは日本の移民が最も成功した例である。

### 日系人

日系人はハワイ総人口の四割を占める。その二〇万の日系人のうち、一世は一割半。大半はハワイ生れの二世、三世である。小さな子供の中には四世も少ない。日本人の最初の移民は一八六八年(明治元年)の「元年者」からである。その後、日布渡航条約ができ、八五年



スーパーマーケット—大陸資本の攻勢





郡役所の設計技師



郵便配達少年



港で働く二世



マウイ郡会議長の二世

人の商店や住宅はたちまち焼かれた。当時、日系人の労働条件は他のすべての人種のそれよりも低かったが、それに対して改善を要求した二回の大ストライキにも、他人種の同情は得られなかった。今日の繁栄は、やはり何といっても、この困難の中で營々と積み重ねられた一世たちの努力の賜である。

戦後、日系人の社会的な地位は目立って高くなったといわれる。郡部議会の議席の三分の一は日系人が占めている。今度の戦争での二世部隊の活躍が、日系人の忠誠を確認させた結果だという。それまで排日思想は移民時代以来、日系人発展の根強い障壁であった。一九〇〇年に黒死病が流行したとき、日系

日系人の忠誠



ワイルク放送局日本語部の人々

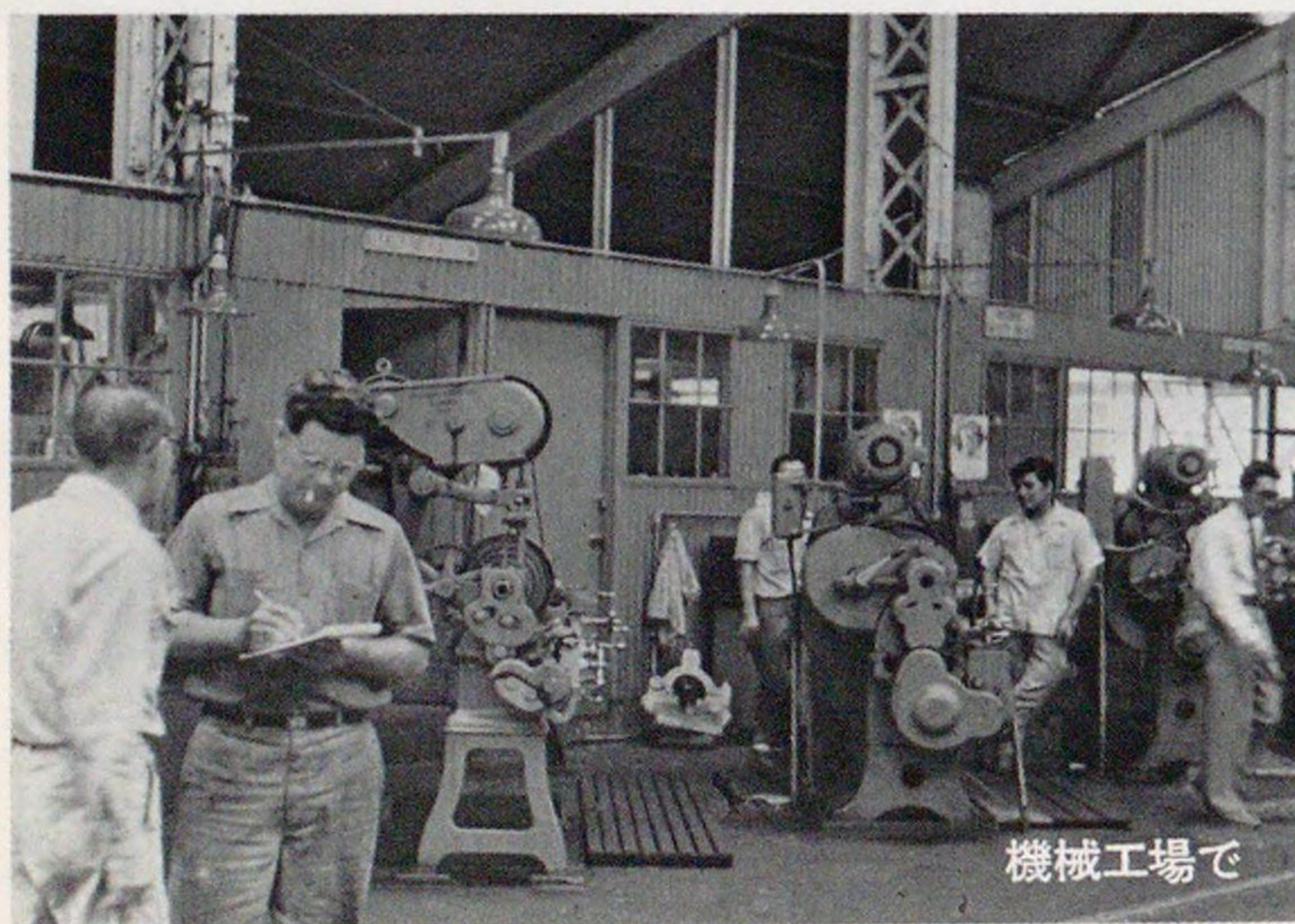




女性の職場も多い



構内引込線と臨時傭の婦人



機械工場で



機械工場の二世技師

糖は合衆国領で生産される蔗糖の四分の一、合衆国全消費量の八分の一を占め、それは全世界の産額の三%に当る。ハワイの全耕地の大半は五つの財閥が所有する甘蔗耕地であり、二万一千の人々がここに働く。そしてカリフォルニアの精糖工場へ送られる粗糖輸出はハワイ総所得の四割をうみ出している。

砂糖

ハワイの島にサトウキビがなかったら恐らく今日のハワイをみることはなかったろう。糖業は今日、ハワイ第一の産業だというだけではない。それはハワイの全歴史を左右したのである。ハワイ糖業は一八三七年、二トン余りの粗糖を輸出したことに始る。今日、ハワイ全島の二八の耕地で生産される蔗



経営の首脳は白人





一列に並んで収穫



ベルトで車の中に集められる



見渡す限りの甘い畑



罐詰工場の季節労働者



苗付けから罐詰まで一貫作業

一億ドルの収入をハワイにもたらしている。そして、この産業に従事する労働者は約一万。七月から九月へかけての穫入れと罐詰めのシーズンには二万二千の人々が働く。学生の夏休みのアルバイトや主婦の小遣いかせぎには、もってこいだ。最も簡単な労働で一時間一ドル二〇セントが相場だという。

世界中どこへ行っても、これだけ広大なパイナップルの畑をみることはできない。またこれほど大規模な罐詰工場もみられない。ハワイは世界のパイナップル罐詰の七割を生産している。最近の記録をつくった一九五三年の数字によると、砂糖による総収入一億五千万ドルに次いで、パイナップルは

パイナップル





収穫、耕耘、すぐに苗付けが始る



タネキビとり



甘蔗の刈入れ



苗付け

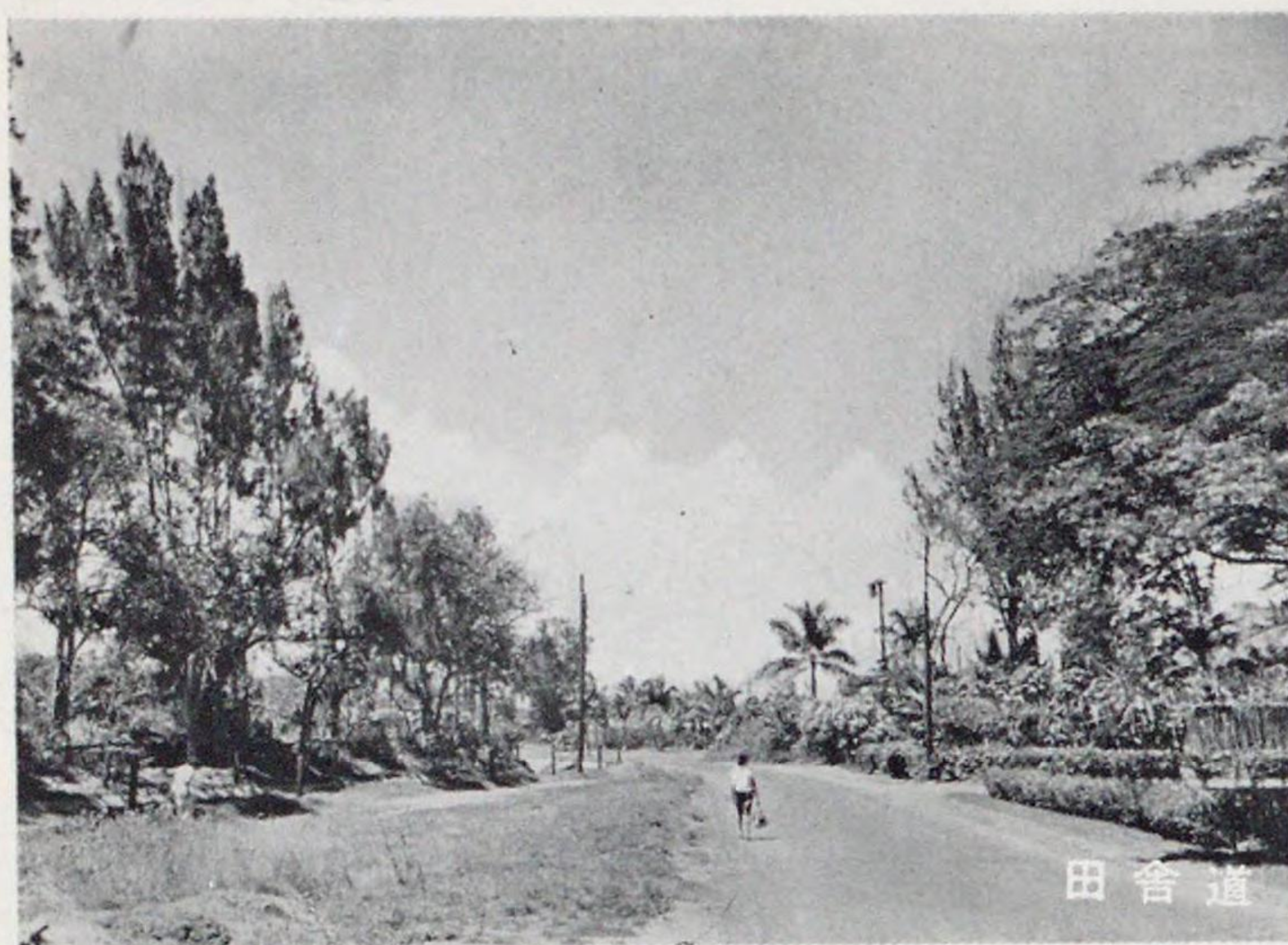


甘蔗畑のオアシス

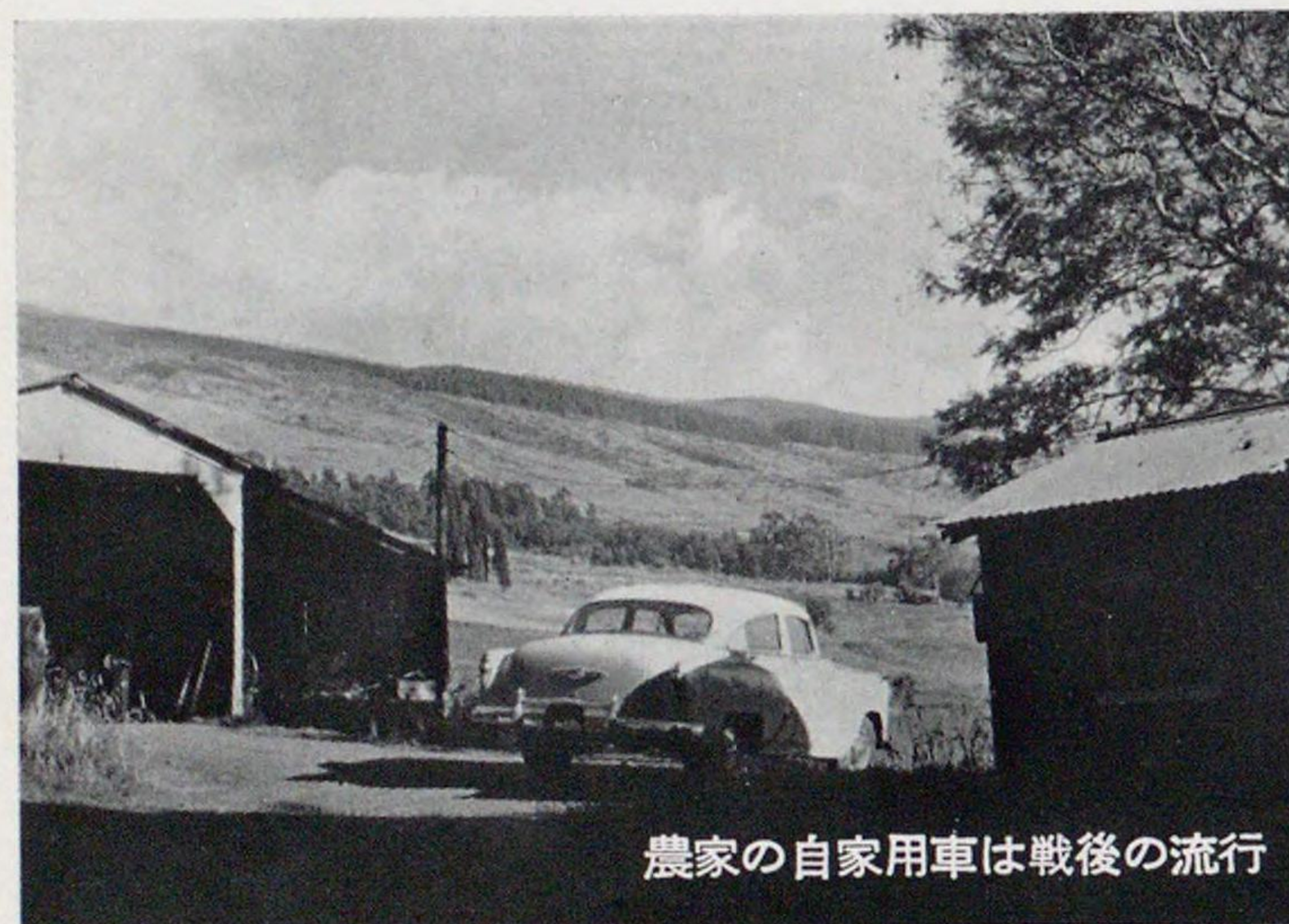
ホレホレ節

サトウキビの穫入れはまず最初に葉を焼いてしまう。シリシリ照りつける太陽の下で、熱風が空に舞い上る。昔、甘蔗耕地では葉を焼かずに素手でもぎとった。ホレホレと呼ばれるこの仕事は掌に血のにじむつらい仕事だった。「行こかメリケンヨー、帰ろかジャパン、ここが思案のハワイ国」—ホレホレ節はその労働の苦しさを伝えている。





田舎道



農家の自家用車は戦後の流行



標準的農家住宅



2〜3エーカーの自作農

とそれら一世の資産は凍結され、多くは二世の名義になった。戦後、新移民帰化法が出来てから一世の帰化は目立ってふえた。市民権を得れば選挙もできるし、凍結された財産ももどる。その試験のために、ある一世の老婆はアメリカ史をマスターし、アメリカ憲法をすっかり暗誦してしまったそうだ。

帰化法

明治時代の契約移民は三年の契約期間を働けば、あとは日本へ帰ろうと、大陸へ渡ろうと自由だった。しかし、大陸で排日の火の手が高まるにつれてハワイへ住みつく人が多くなった。日本の商品を売り歩く行商から始めて店舗をかまえた人もあり、土地を買って百姓になった人もあった。戦争が始まる



カウボーイ





日本的風景



マーケットへ、にんじんの出荷



マーケットで



出荷の手伝い



日本語

子供たちは日本語を聞いて理解することはできても、話すことは難かしい。学校から帰ると、日本語学校へ通う子供もいるが、彼らでも同じことだ。一軒の家の中で、日本語の放送を楽しんだり、邦字新聞を読んだりするのは一世と年寄りの二世だけ。子供たちは英語の放送をきき英字新聞を読んでいる。



上は住居、下は車庫と作業場





椰子の葉かげ



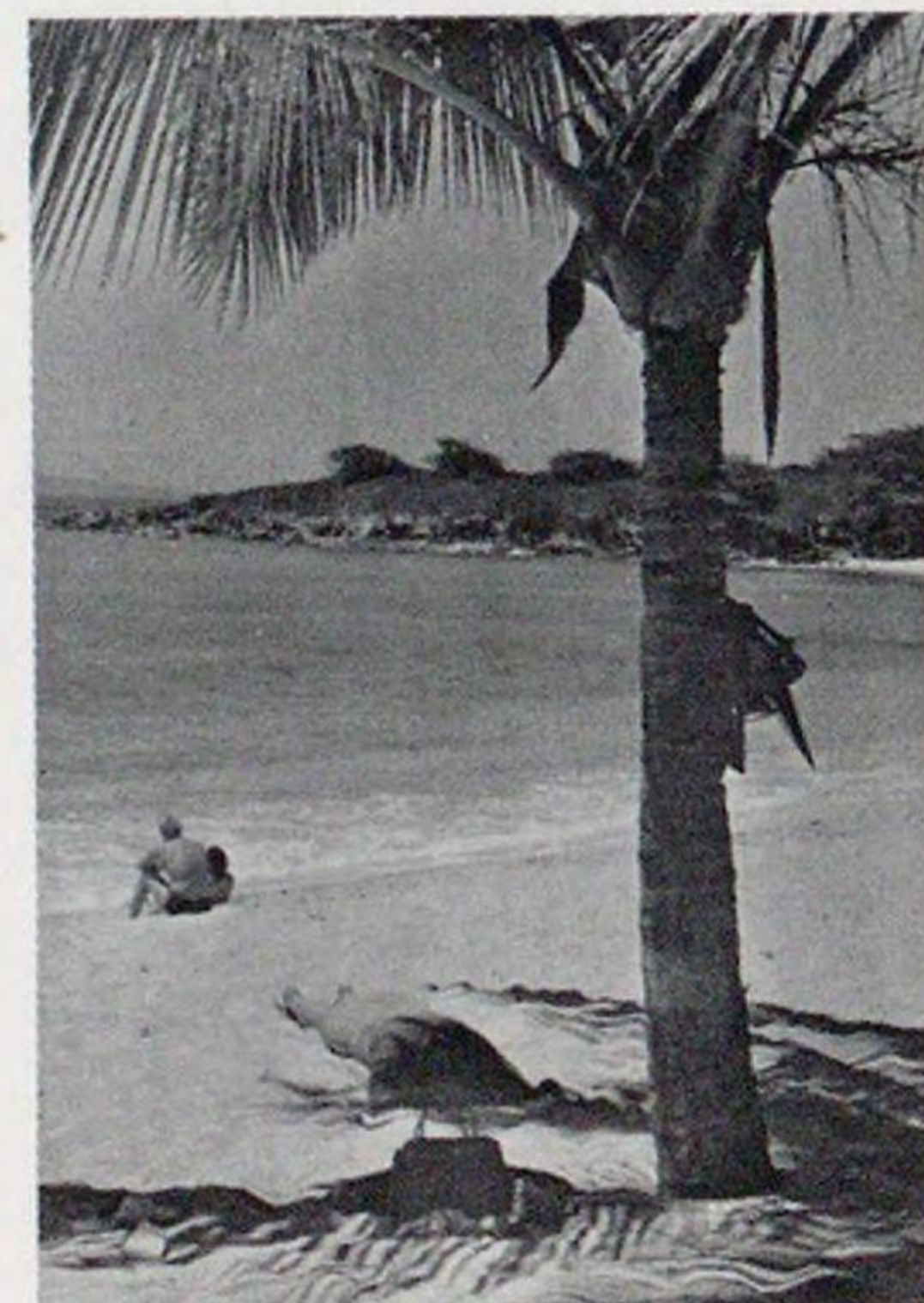
ラハイナの海岸，対岸はラナイ島



ラハイナ郊外に行楽地



カフルイの波止場で



夏冬なしの海水浴場

ハワイは台湾よりも赤道に近い。直射日光に照らされれば冬でも暑い、日陰に入れば夏でも涼しい。四季を通じて貿易風に恵まれているせいである。ハワイへ来る観光客は年間七万六千。四千万ドルの金を落してゆく。観光業はハワイ第三の産業だといわれている。海の美しいことは、また格別である。

海





売れるのはキング・平凡・主婦の友



ぞうりも MADE IN JAPAN



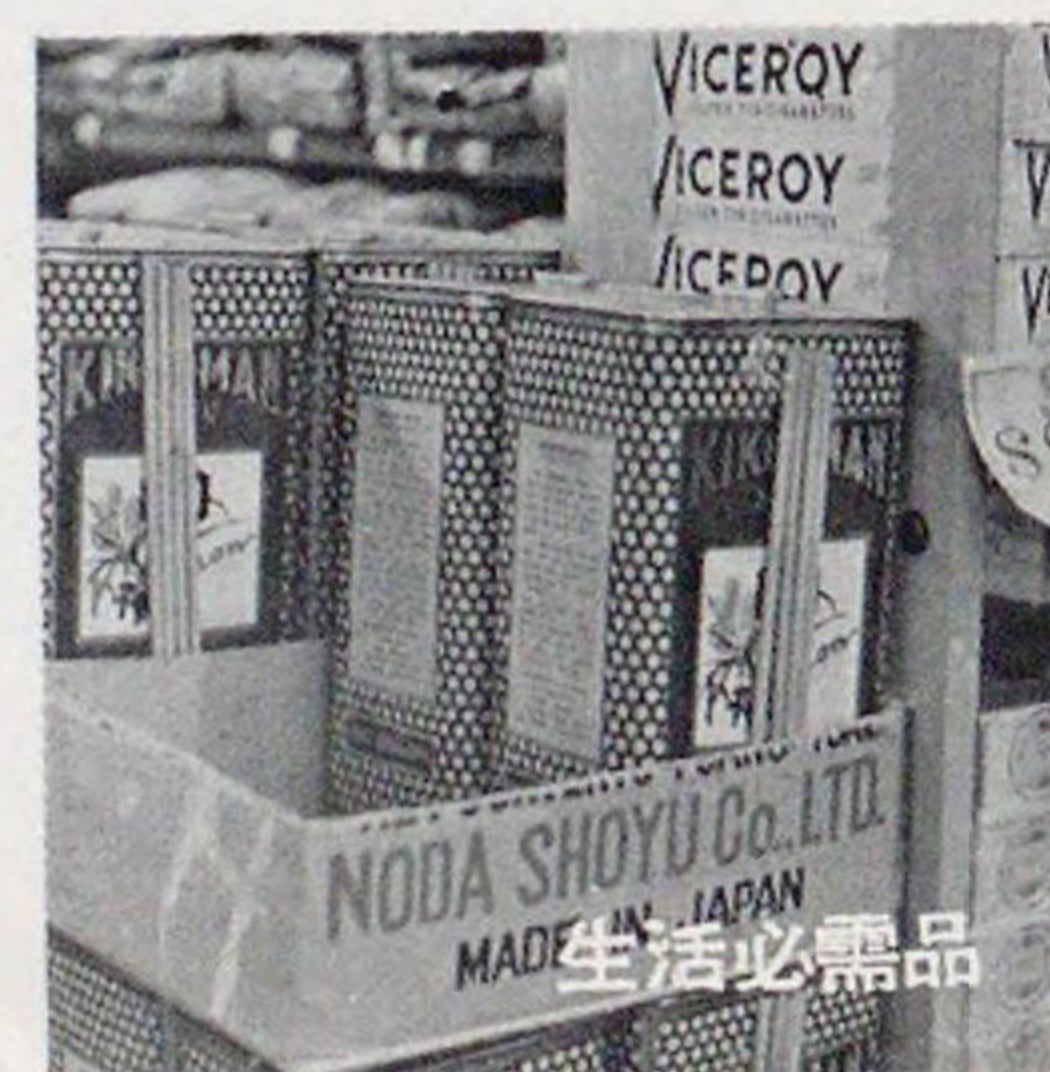
友禪染のアロハ



罐詰の焼豆腐

### 日本の香り

日本からハワイに輸出されるものでは食品、映画などが上位にある。町の食料品店をのぞくと、実にさまざまな MADE IN JAPAN の罐詰が並んでいる。すき焼やおでんの材料など、日本ではお目にかかれない罐詰も少なくない。生活様式が変化した場合、食事の習慣が一ぱん変りにくいもの一つだというが、ハワイの日系人の生活は確かにその一例に違いない。ハワイには現在九つの醤油(味噌)会社、三つの酒造会社がある。かまぼこ製造所も繁昌している。銘酒「〇〇正宗」等の看板は町のいたる所にある。



ある店先で





「すきやき」



日本の歌

戦後日本中に渡米熱が流行した頃、多くの流行歌手や浪曲家たちがハワイに立寄った。戦争中抑えられていたことも手伝って、ハワイの二、三世の間には戦前をしのぐ日本歌謡の全盛時代が出現した。今はやや下火だというが、日本のレコードはやはりよく売れる。日本映画は年160本も輸入されるが、一世にも二世にも文句なく受けるのは時代物。人気俳優も日本と変わらない。書籍は年3千万円。約5万人を相手の商売で、この方はかなり苦しいとのことだ。



浪曲大会のピラ



映画館の前で



レコード屋で



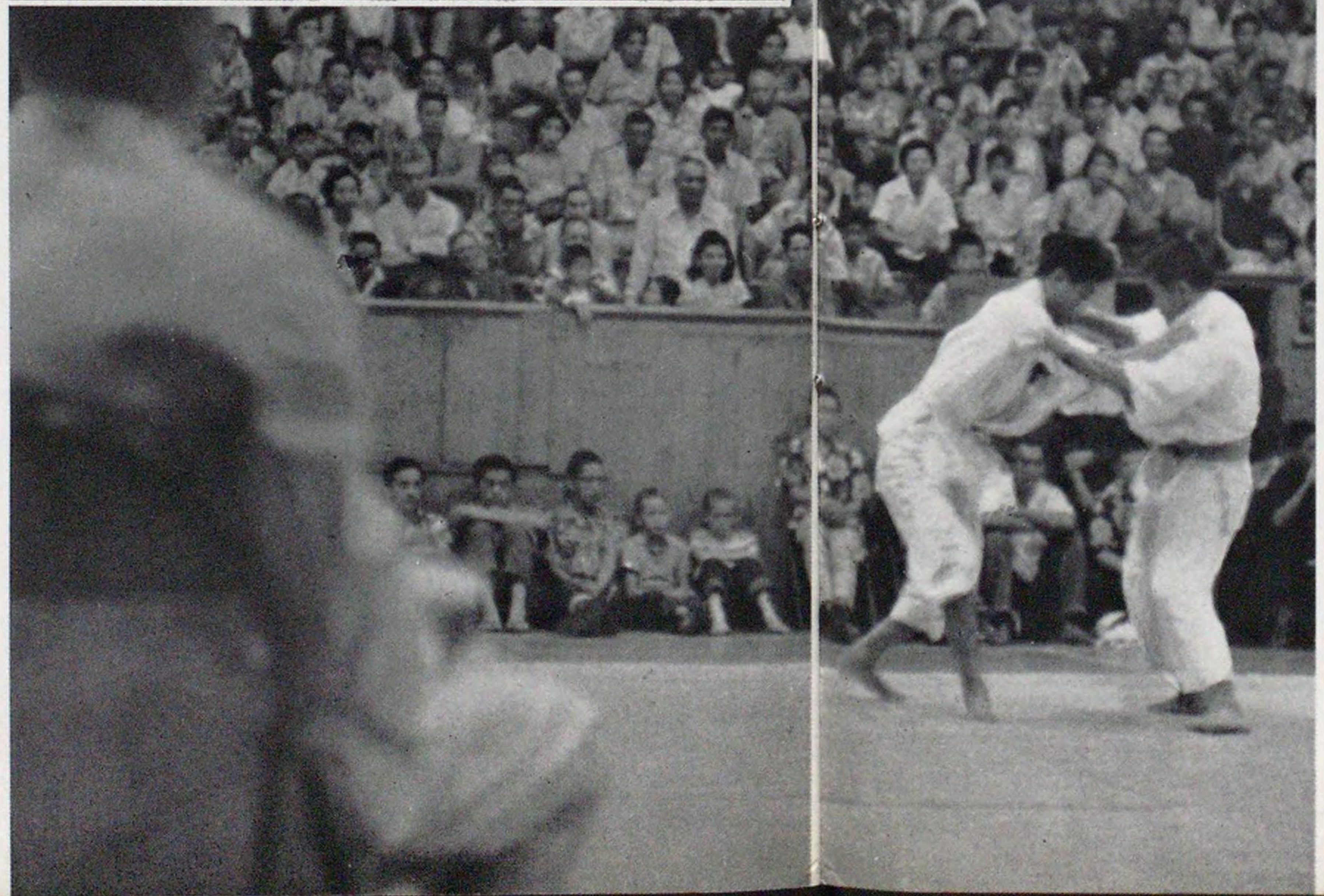


柔 道

柔道は最近急に国際的なスポーツになったが、ハワイでは以前から盛んだった。戦前は学校の正科として教えられていたくらいである。最近では外人の間でも非常に盛んで、外人の有段者もかなりいる。大きな島には必ず柔道連盟があり、大会には観衆がたくさん集まる。



1. Ide	Matsu
2. Oguma	Matsunaga
3. Matsumura	Matsunaga
4. Matsumura	Matsunaga
5. Miyazaki	Matsunaga
6. Blake	Matsunaga
7. Uehara	Matsunaga
8. Fujishiki	Matsunaga
9. Hayashi	Matsunaga
10. Ide	Matsunaga

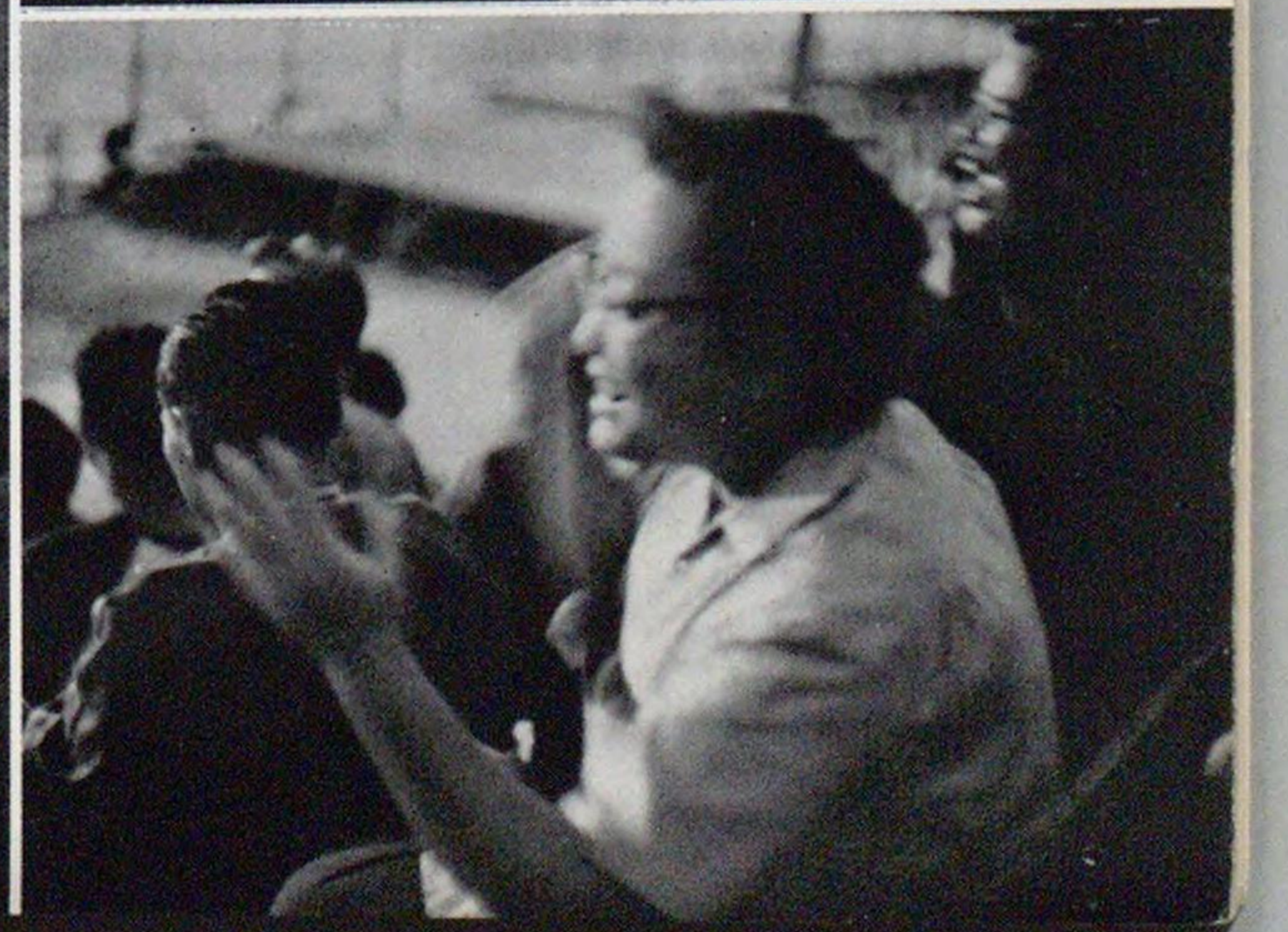
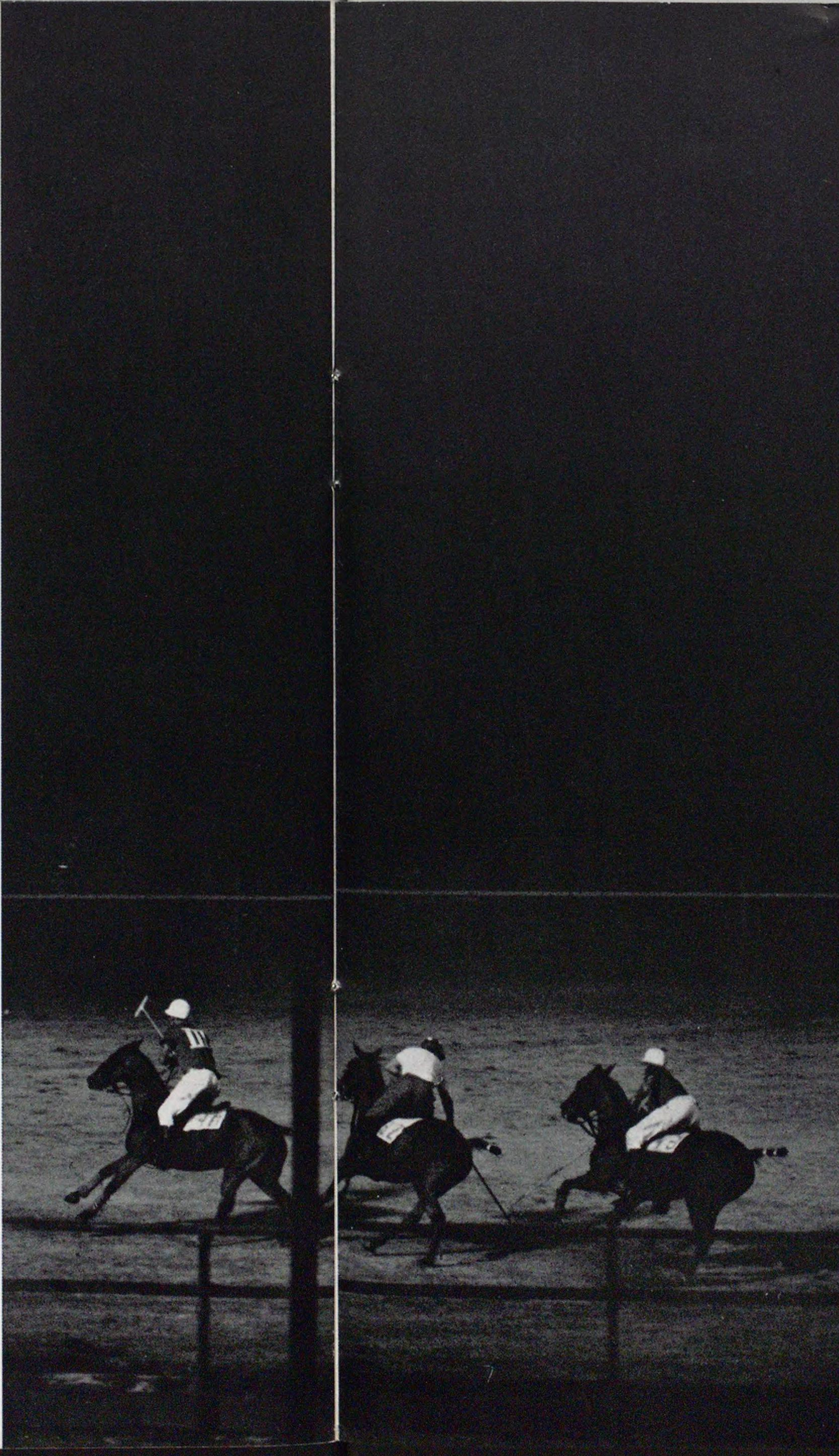






### ハワイのスポーツ

ポロは別にハワイでとくに盛んなスポーツというわけではない。(ハワイではマウイ島で比較的盛んである)。あらゆる人種が集まり、そして一年中シーズンに恵まれるハワイの島々では、スポーツは何に限らず盛んである。およそ考えうる殆どのスポーツが行われているというのがハワイのスポーツ界の特色だろう。ウインタースポーツの記録さえある。ハワイ島マウアケア火山(海拔13,784呎)の頂で、ある年住友銀行員某氏がスキーをやった記録がある。それはともかく、水泳や野球は特に盛んで、有名な選手も少ない。そして一般の人々のスポーツ熱も盛んである。夜の快適なハワイではナイターが連日客を集めている。







盆踊りを見る人々



バザーの夜



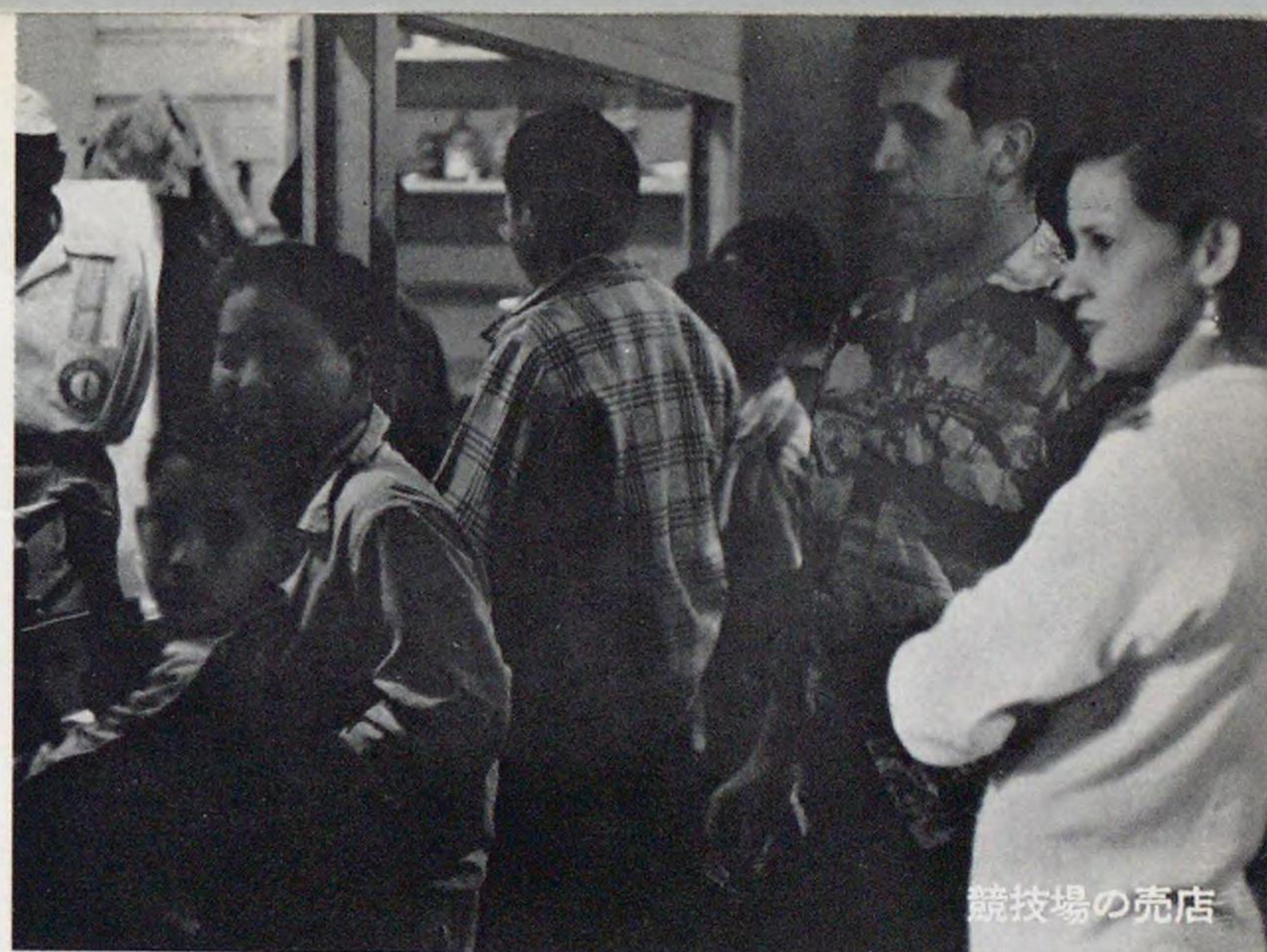
ポーリング

夏の夜

ハワイではいろいろな民族が持ち寄ったさまざまな年中行事が、その花を競い合うといった具合に行われる。ハワイ統一を遂げたカメハメハ大王祭(6月)、アメリカ独立記念日(7月)、七夕、盆踊り、フラ祭(8月)、月見(8月)と、それぞれに原住民、日系人、アメリカ人、中国系人が中心になり、他の民族の人々もそれに参加する。いつまでも明るいハワイ特有の夜空の下で歓楽はいつまでもつづけられる。



バザー



競技場の売店



キリスト教のバザー



バザーの一コマ





盆踊り(お寺の境内で)





ドラッグストアの前



娯楽街の商店



夏の夜長



盆踊りの夜

盆 踊 り

日系人社会での夏のメインイベントは何といても盆踊りだ。岩国踊り、新潟踊り、熊本踊り、福島踊り等、それぞれに県人意識を燃やして、一世の音頭で競演する。学校の広場や寺院の境内で、夜ふけまで続けられる盆踊りのリーグ戦には耕主組合からも寄付があり見物人もたくさん来る。ただ踊る人にも見る人にも歌の文句はさっぱりわからない。



テレビ



一世から伝わる手ぶり足ぶり



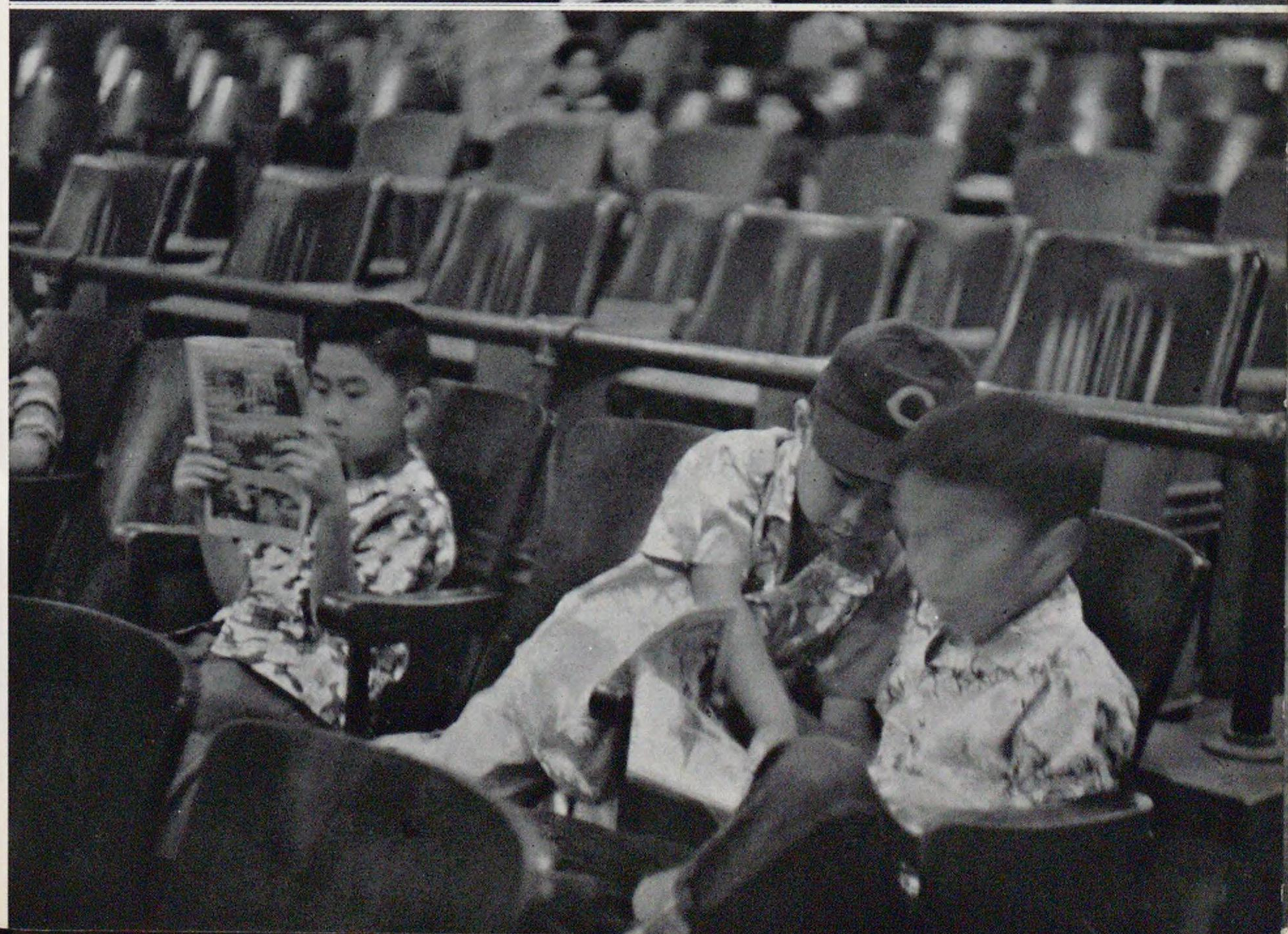
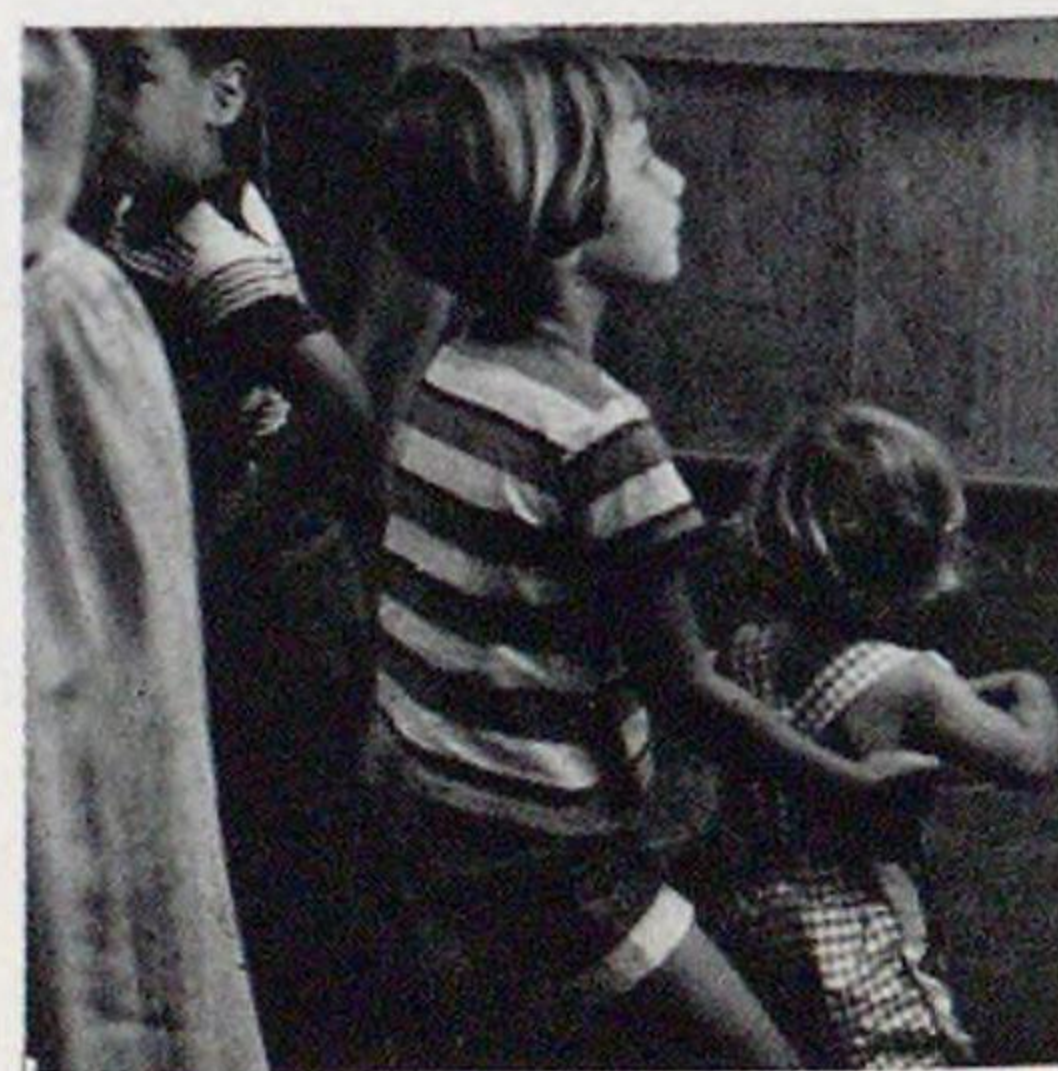
アロハも輪に入る



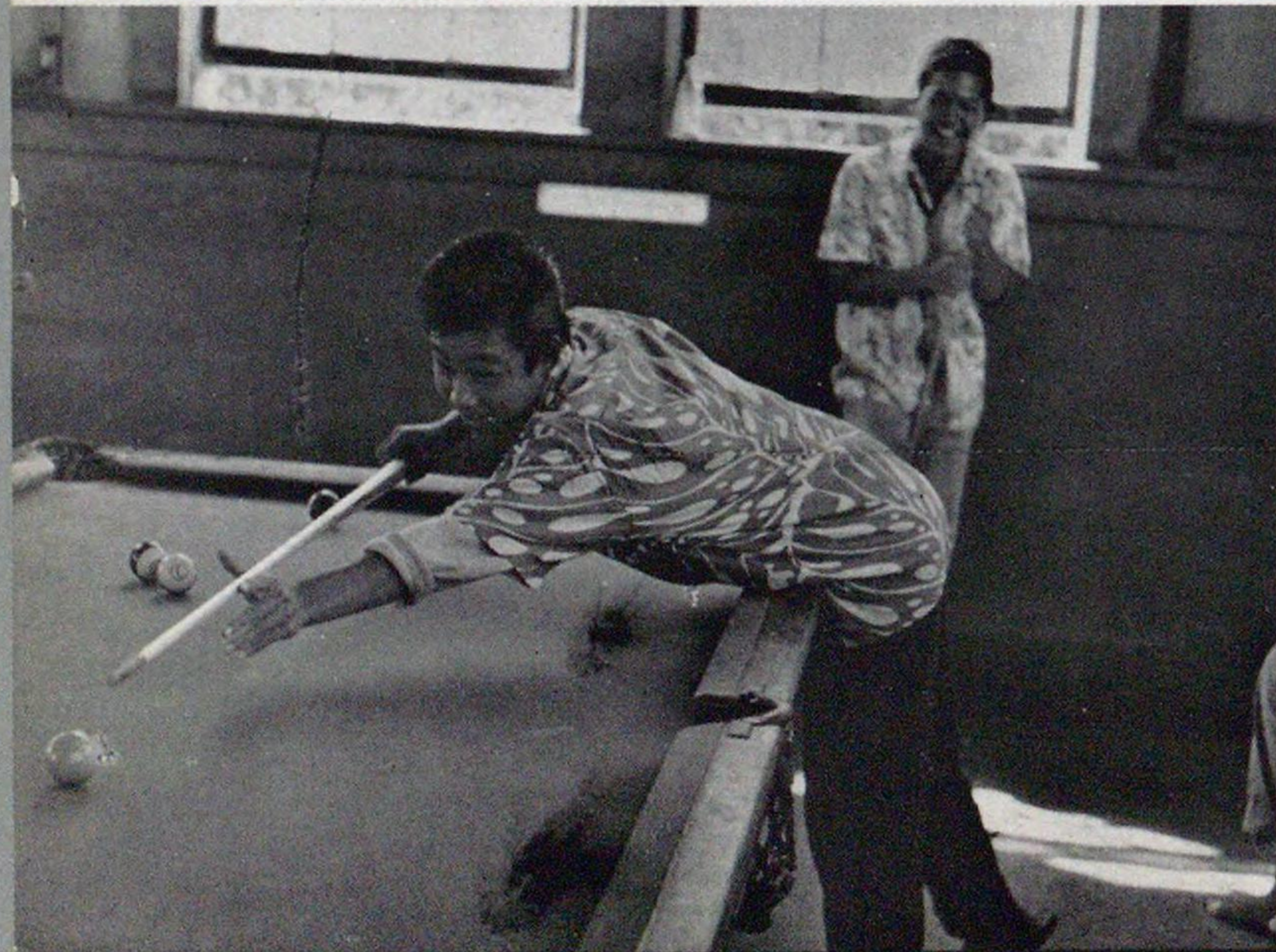
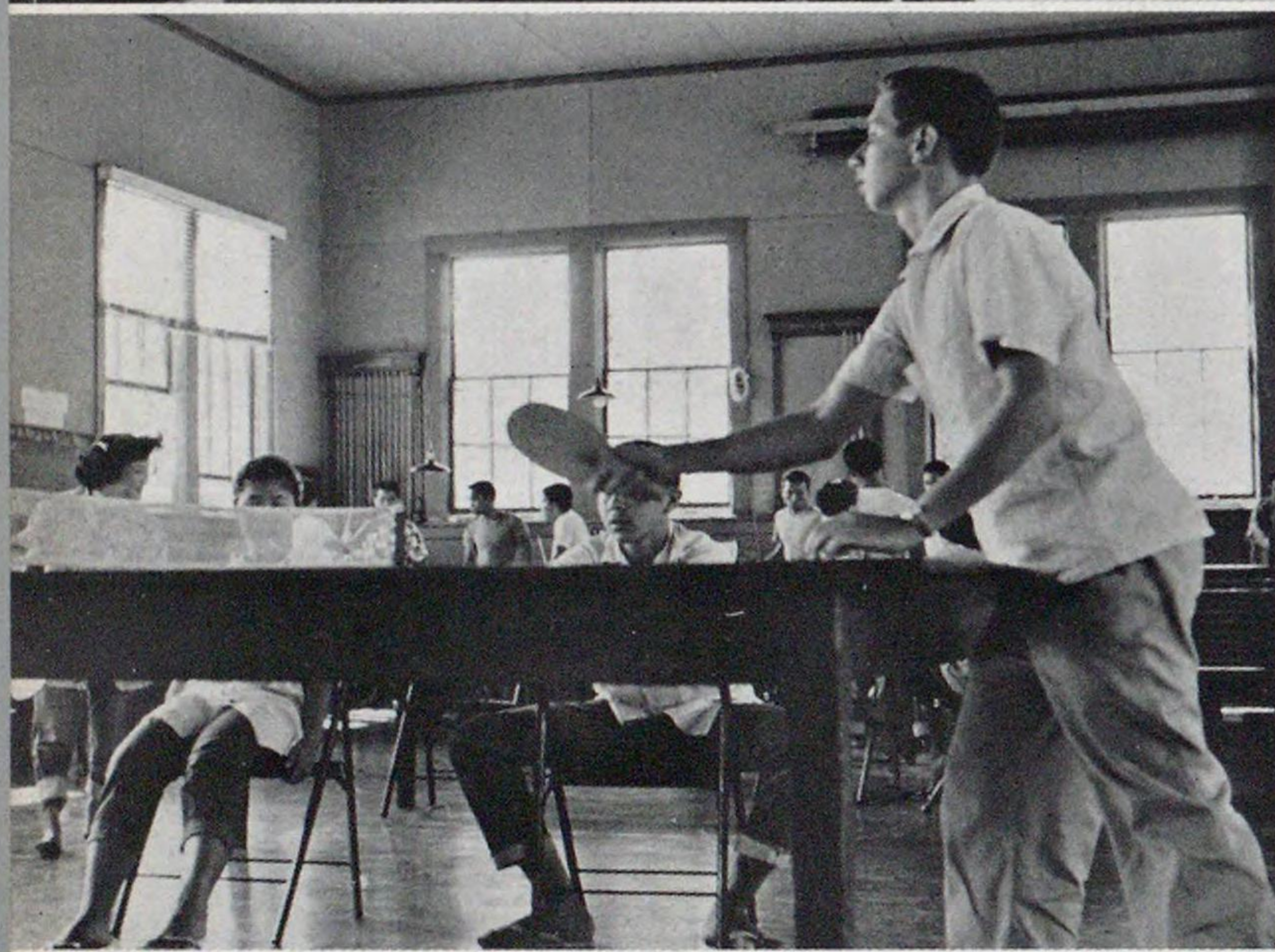


### 映 画 館

ハワイの映画館で上映される映画の60%はアメリカ映画、30%は日本映画である。一世は浪曲映画や母もの映画に涙を流し、三世はチャンバラや西部劇に胸を躍らせる。長谷川一夫や美空ひばりはここでも大変な人気がある。ただ、日本と違うところは画面に英語の字幕が出ることだ。二世や三世の大多数はこれがないと日本映画を理解することができない。子供たちはこの字幕のある日本映画を通して、お爺さんやお婆さんの故郷を、想像しているのである。

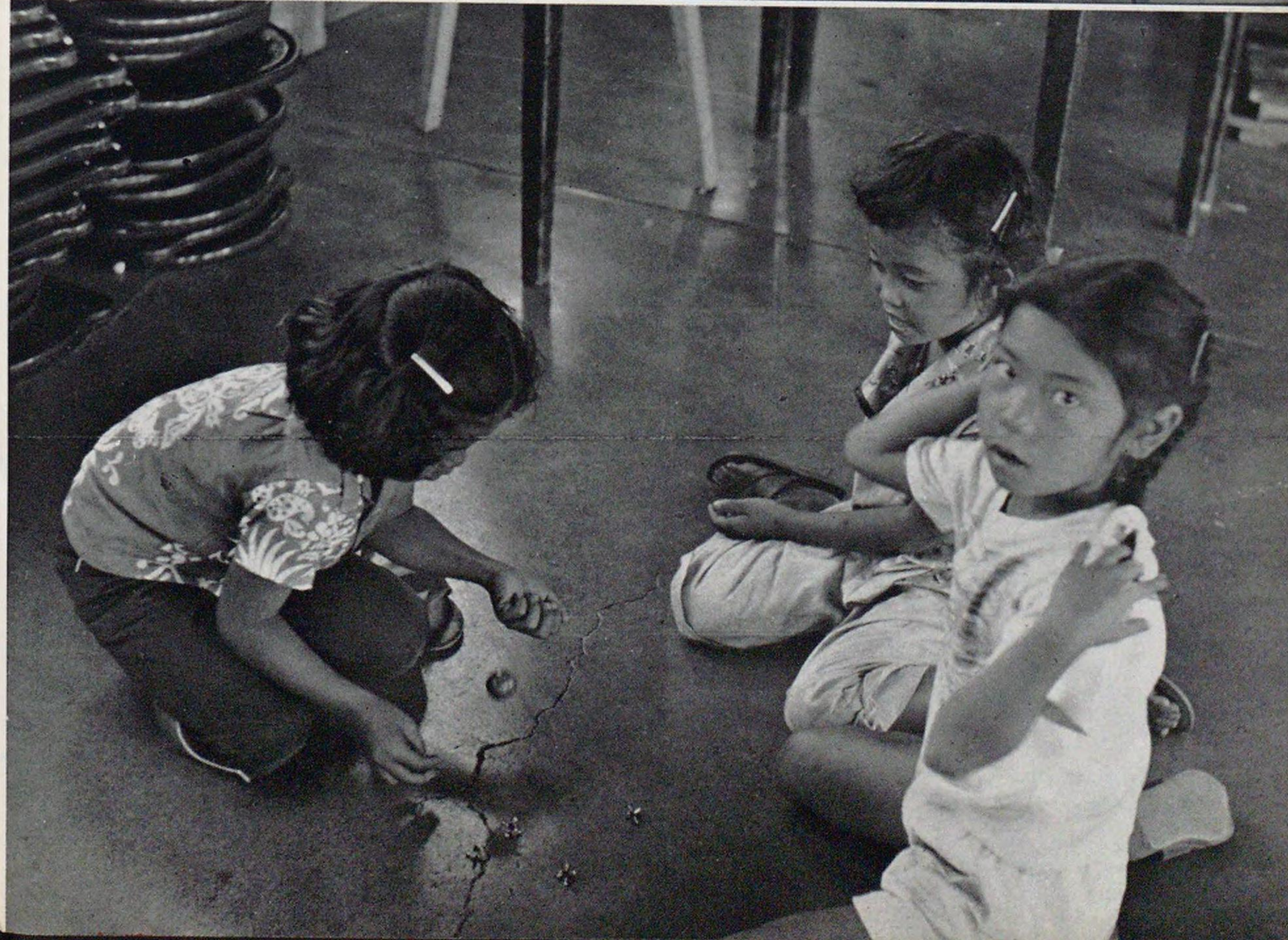
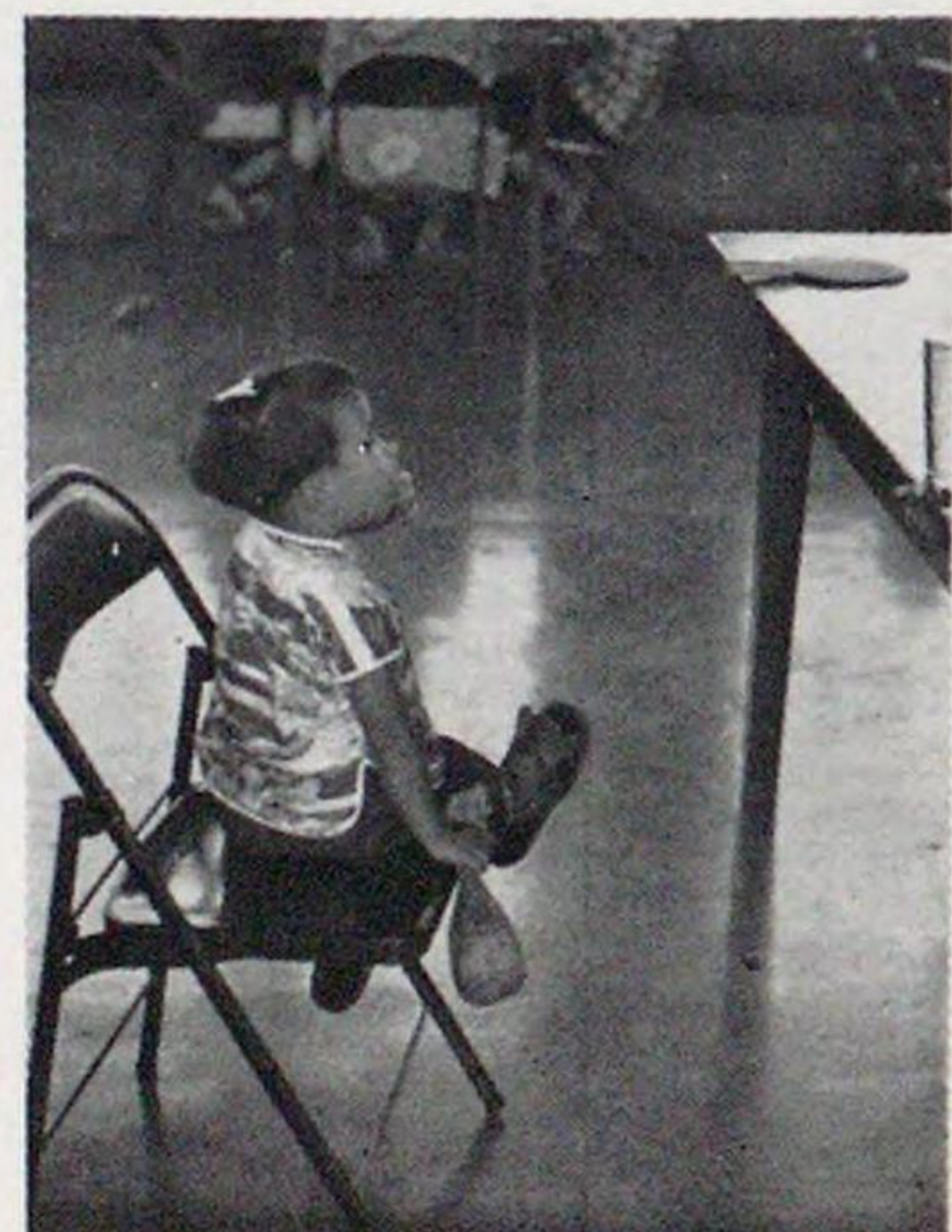






子供たち

ハワイでは運動公園やクラブなど、子供のための施設が発達している。そこにはいろいろな道具が揃っていて、小学校前から高校生までたくさんの子供が遊んでいる。見ていて気持ちがよいのは、ここには人種的偏見の全くないことだ。小学生ぐらいの子供たちは皆一様にはだして、少し大きくなると靴をはく。そして英語と日本語と土語をチャンポンにした一種特別の国際語が彼らの間で使われている。

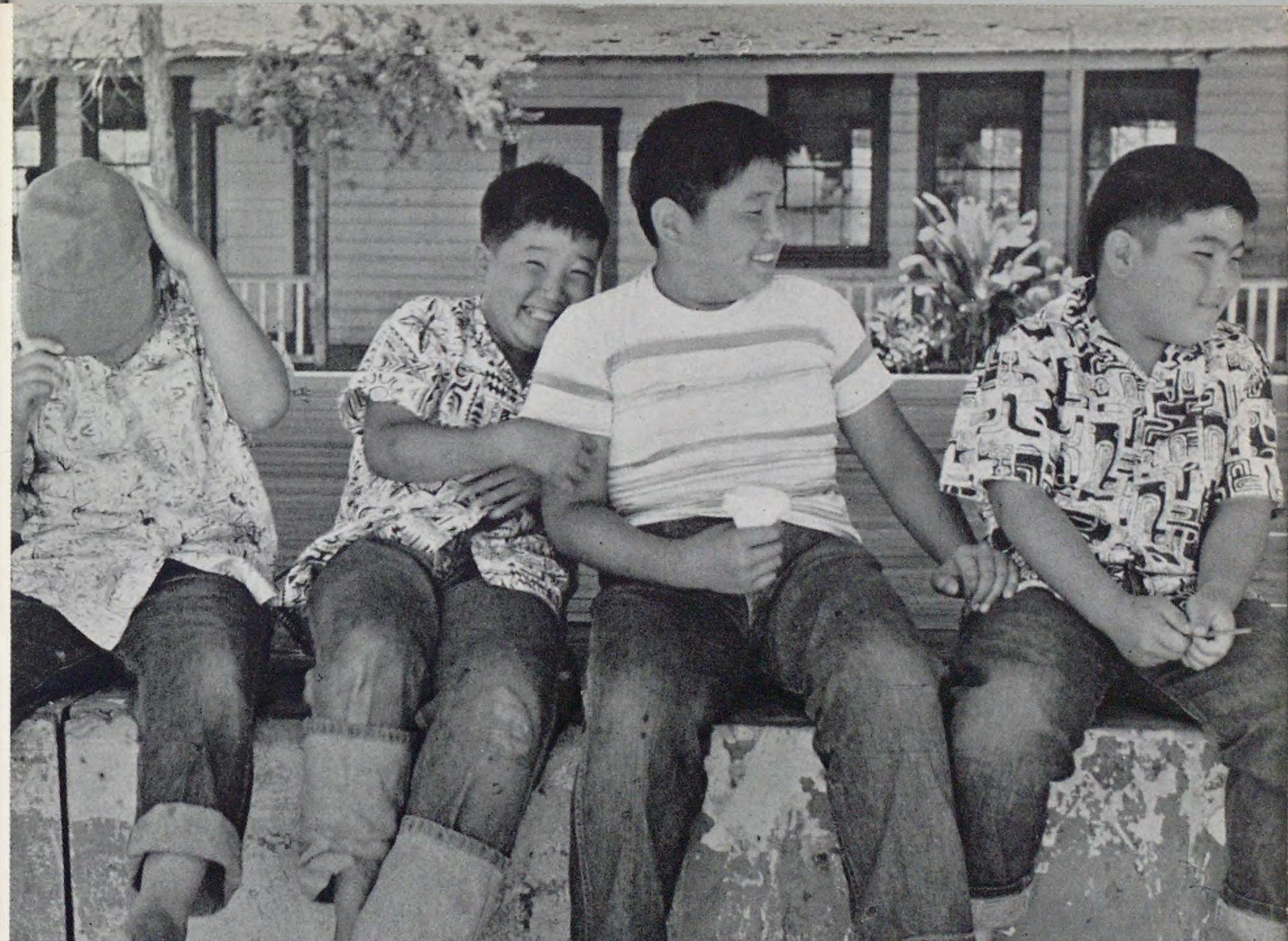






### 小 学 校

小学校を訪ねて一ばんびっくりするのは年齢の割に身体が大きいことだ。統計でも日系人の体格は年々よくなっているようだ。一世より二世、二世より三世が大きい。おそらく生活と気候の関係だろう。試みに子供たちの食事の内容を聞いてみた。朝は牛乳2合にトースト、野菜と卵又は肉、それにパイヤかバナナ。昼は牛乳2合とパン、野菜と魚又は肉、晩は米の御飯に肉、野菜と果実、その他に午前と午後2合ずつ牛乳を飲むという話だ。肉といっても驚くほど大きなテキをペロリと食べてしまう。学校の給食設備もよかった。

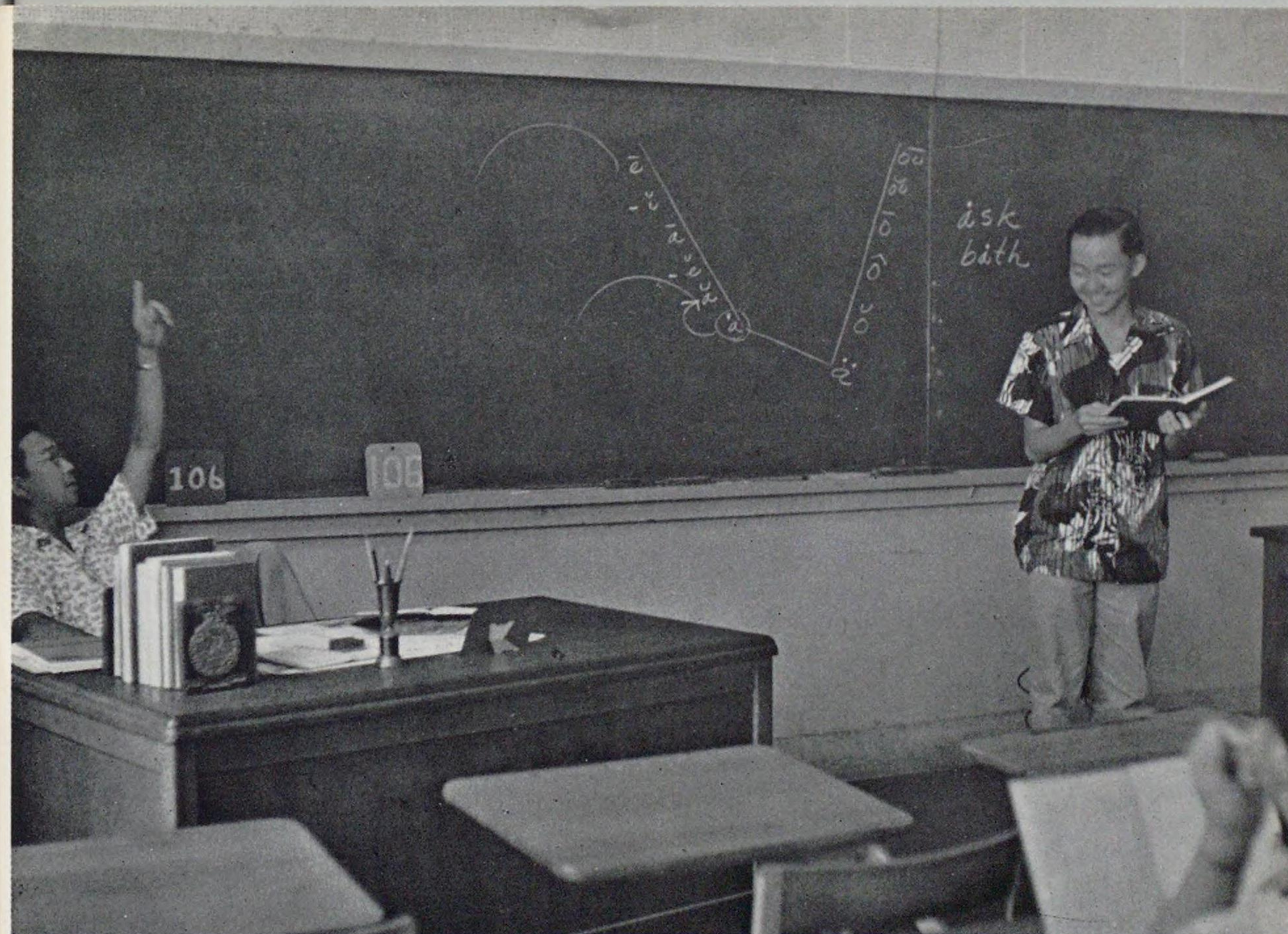




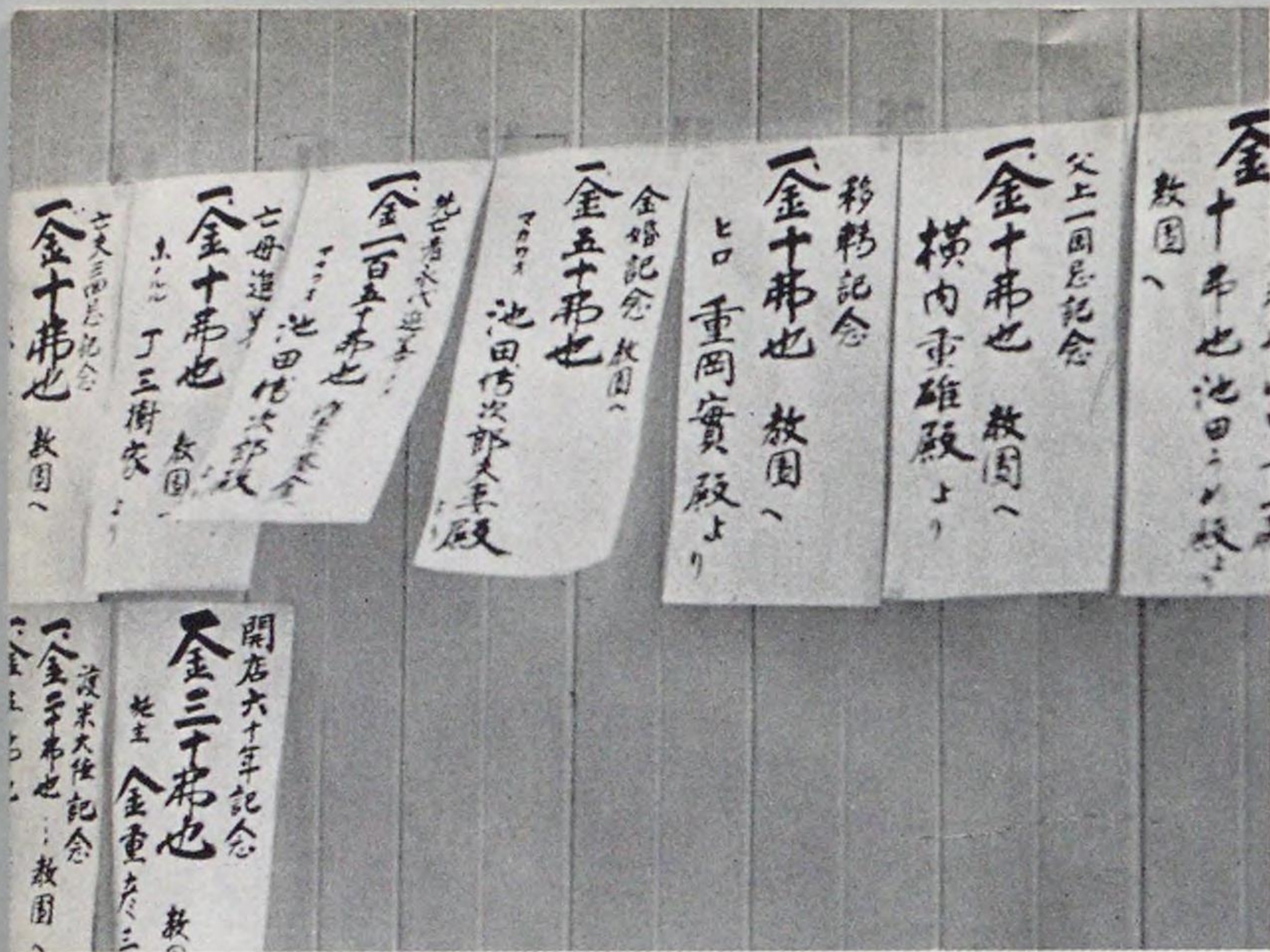


ハイスクール

9年間の義務教育の上に3年間のハイスクールがある。義務教育の期間はもちろん、ハイスクールでも特別な科目以外は授業料は要らないし、教科書は学校に備付けてある。子供たちをハイスクールに通わせるのは殆んど負担にならないという話だ。卒業生の47%は更に上の学校へ行く。その約6割はハワイ大学へ、あとは職業専門学校へ行く。ハイスクールからすぐ社会へ出るもの場合には、女の方が男より有利だという。女の仕事の方が多いというのだ。だから最近、男の卒業生のなかには軍隊へ行くものが多くなったという話である。







仏 教

お寺の活動が活潑なことは日本と違う。真宗西本願寺派を始め各宗派の寺院が合計97、20万の日系人の中13万が仏教徒である。各寺院とも日曜学校を開き、仏教青年会や婦人会を組織している。キリスト教の布教法を見習って、英訳した讃仏歌をパイプオルガンの伴奏で合唱し、お経の英訳も進められている。戦争中閉鎖されていたお寺は、あちこちで大きく再建されている。そして1年に日本から輸入される仏壇仏具や線香も馬鹿にならない金額だという。





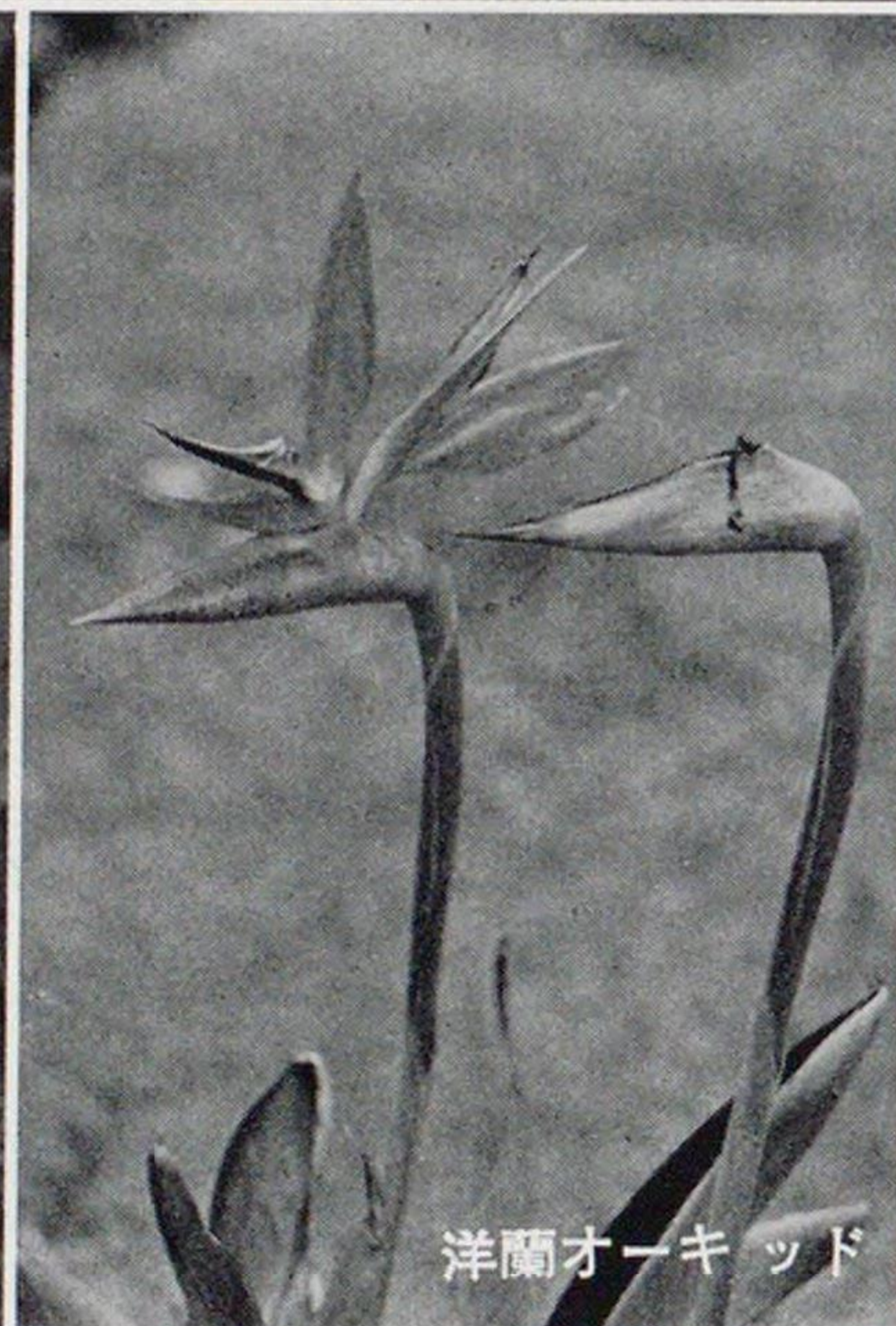


生 花

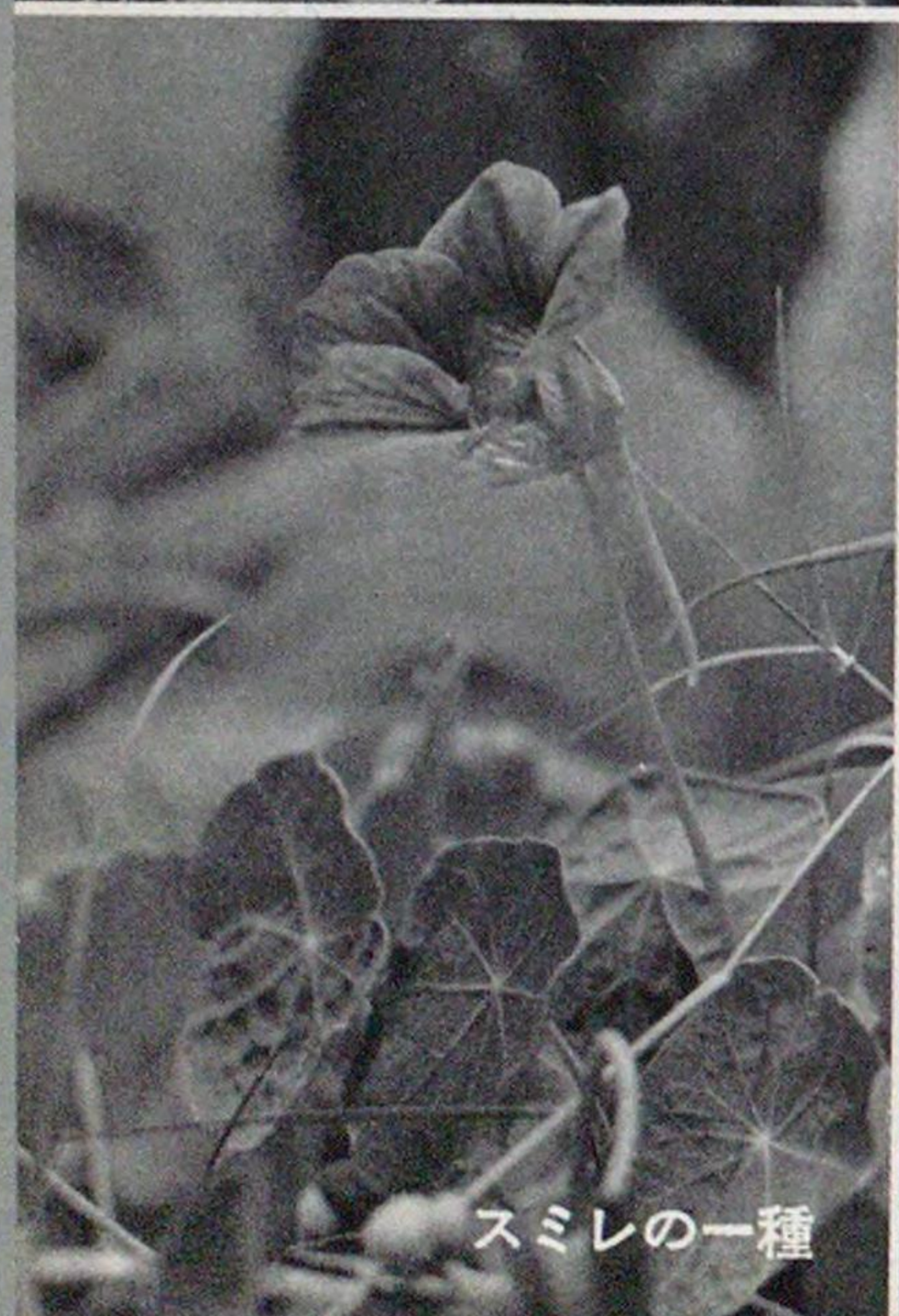
戦後の日本趣味の流行は日系人の間だけではない。とくにお茶とお花は戦前以上に盛んである。年頃の娘10人に1人はお茶かお花を習っている。花嫁修業の大切な一科目らしい。そして日本にあってハワイにない流派は恐らくないだろうと思われるほど、各流の師匠が看板を出し、それぞれに繁昌しているらしい。熱帯のハワイには植物の種類が多いから材料にも不足はない。



シャボテン



洋蘭オーキッド



スマレの一種



バード・オブ・パラダイス

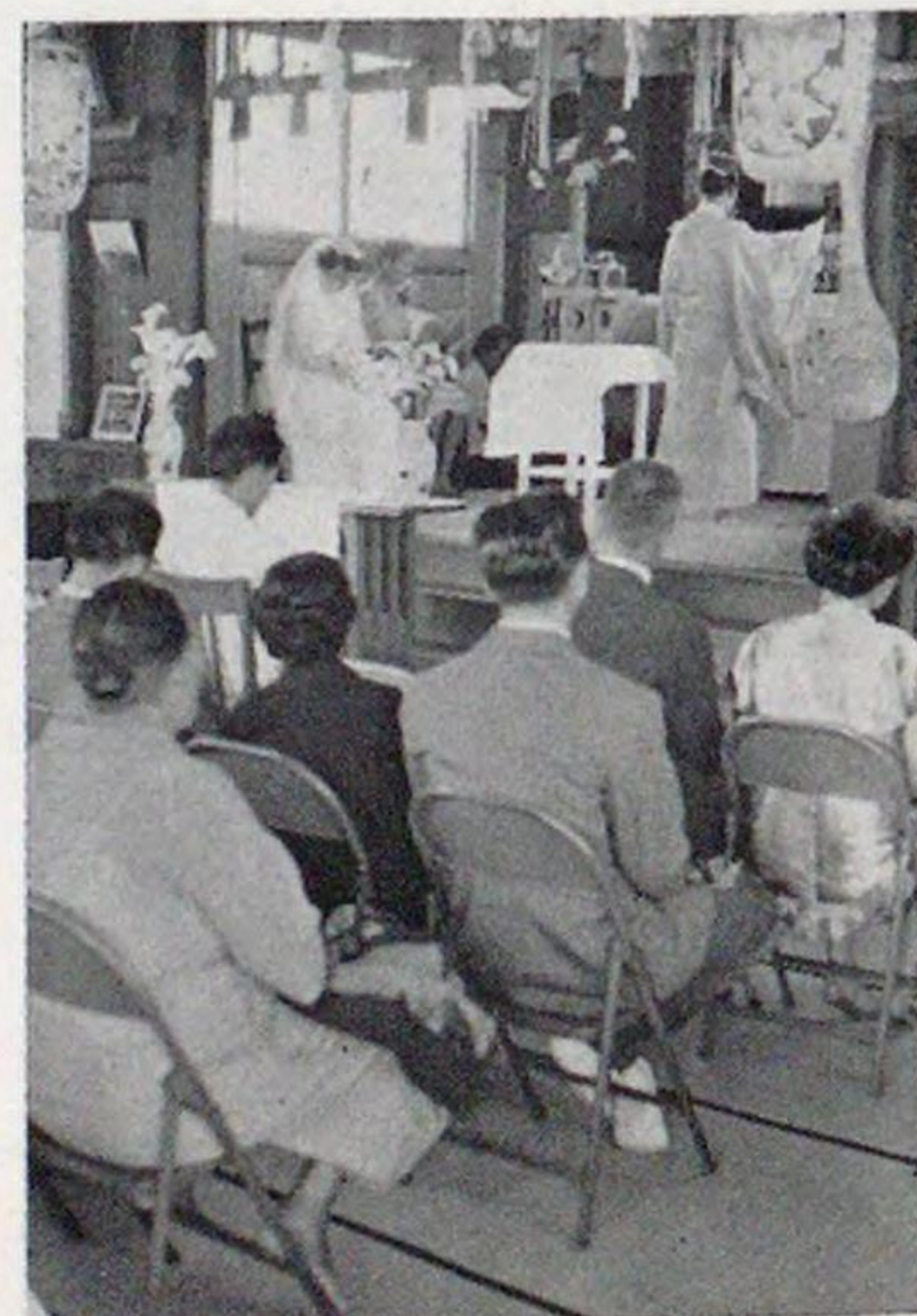
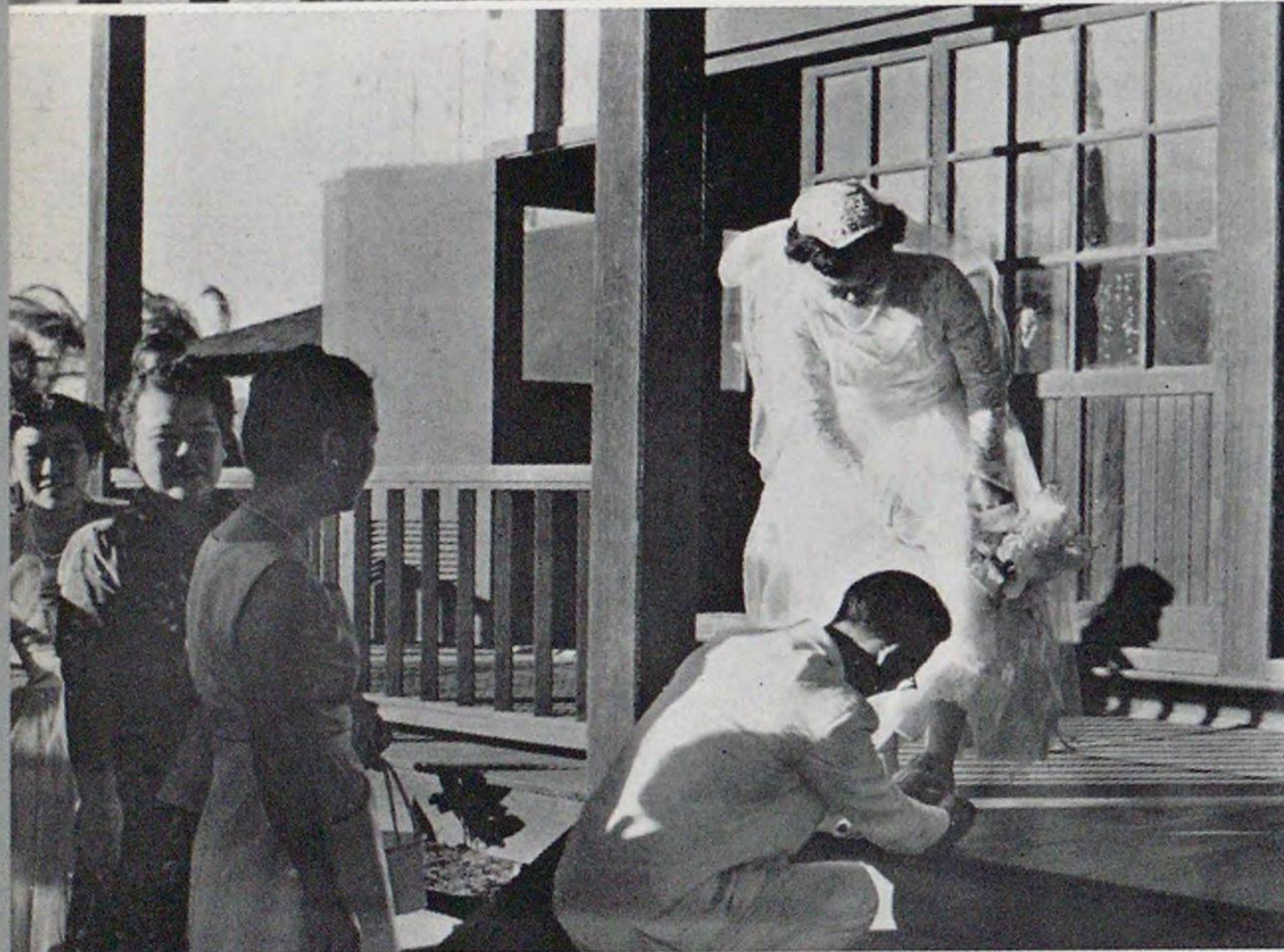






結 婚 式

外人向のあるハワイ案内書をみると、日系人社会の記述の中でとくにその結婚式の様子を詳しく伝えている。披露宴で仲人達の挨拶の後に万歳を三唱すると書いている。万歳三唱はともかく、結婚の儀式だけは日本の風習を今でも非常に厳格に守っている場合が多いようだ。様式としては仏式が4割で、神式とキリスト教式が3割ずつだという。神主はすべて一世で、ノリトだけは完全な「日本語」であげられる。

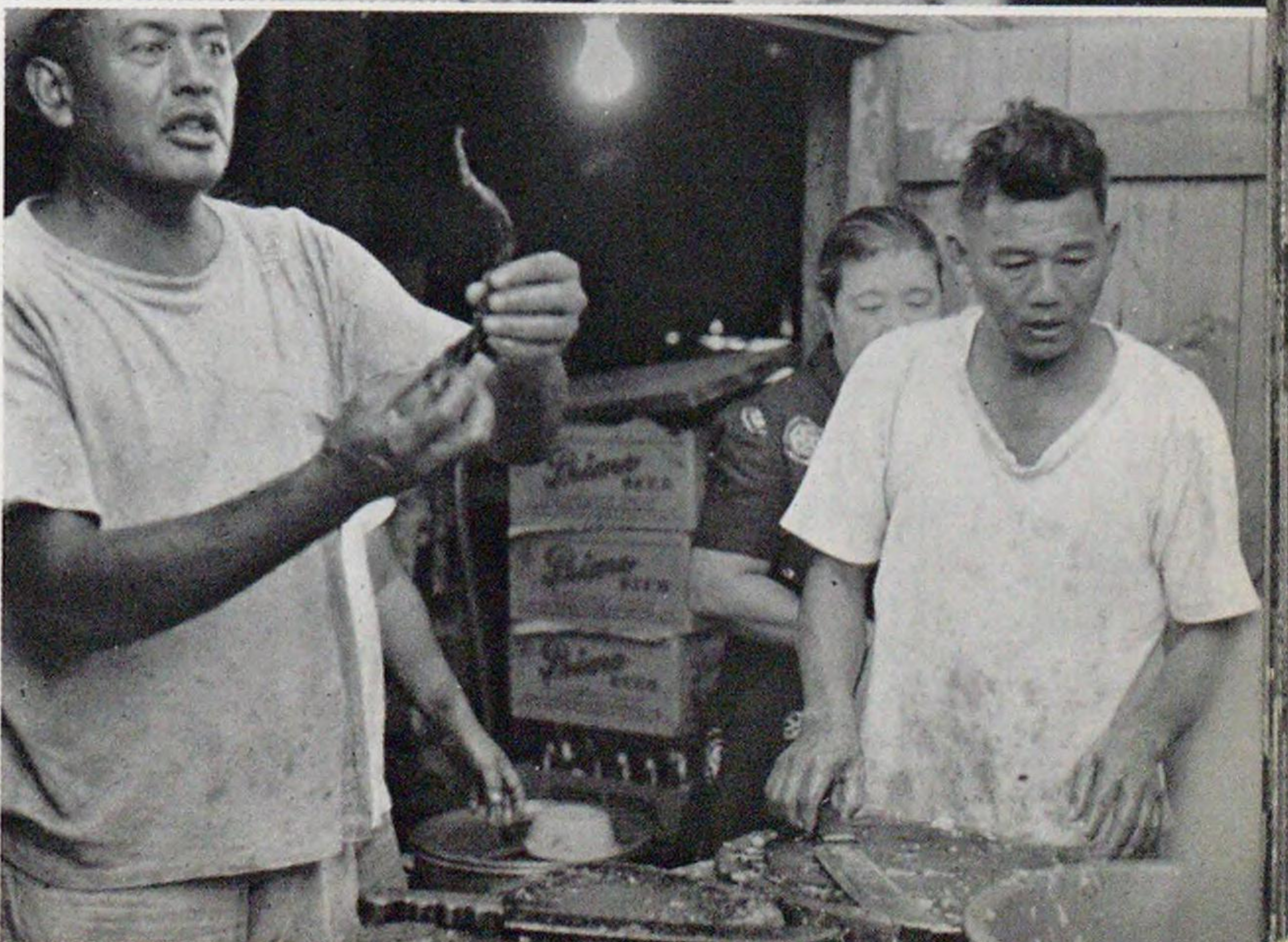
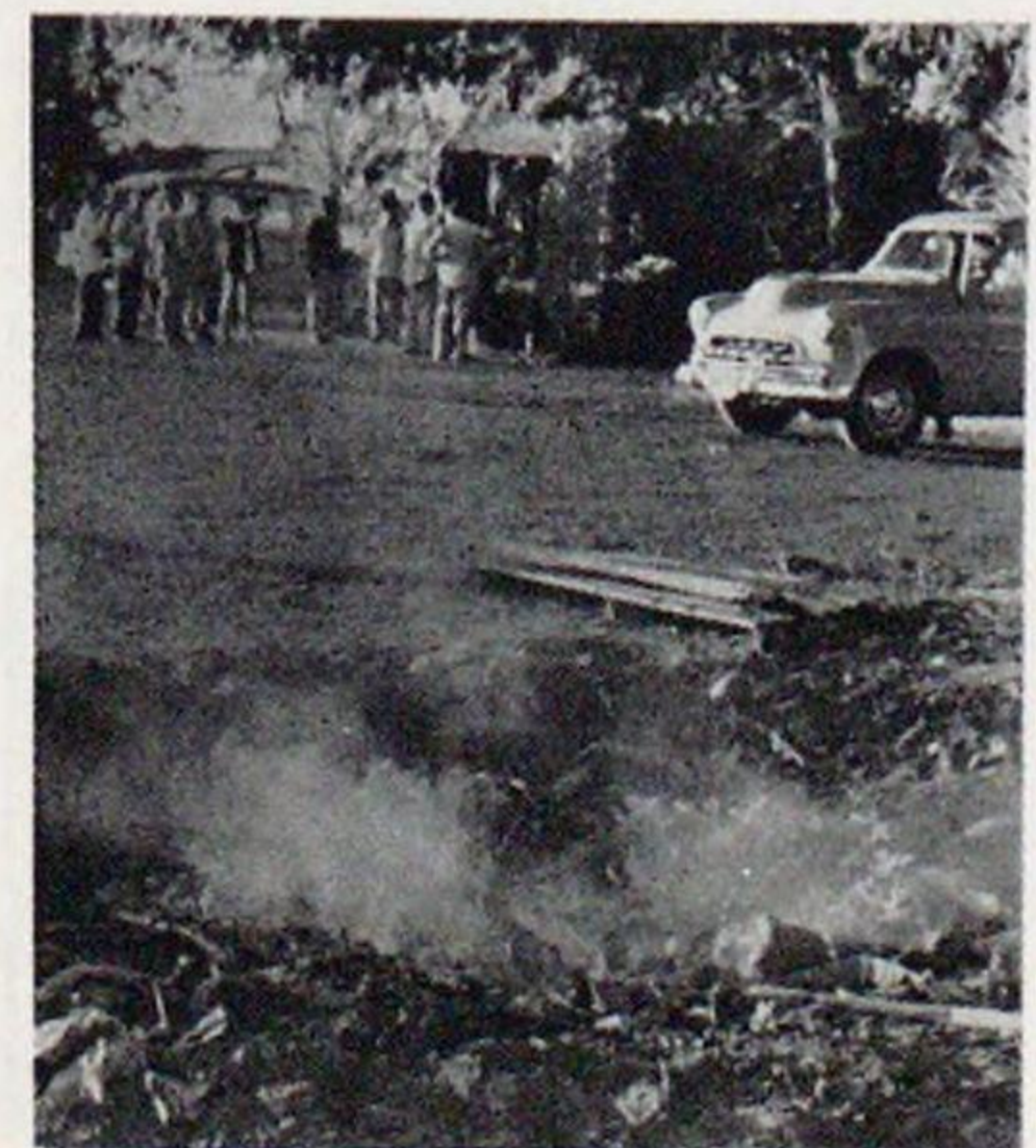




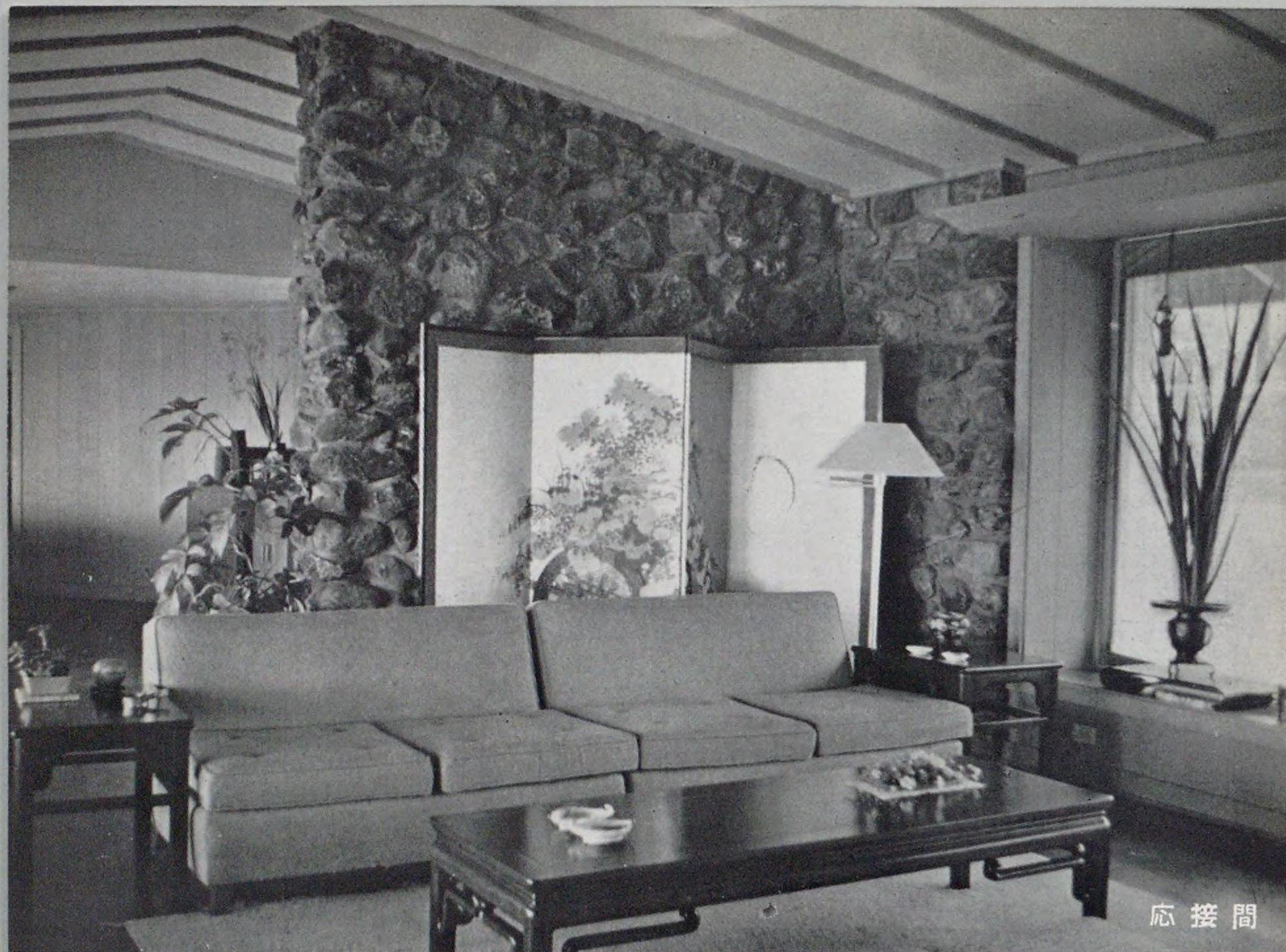


結 婚 披 露

式がすむと、集まった親戚や友人は椰子の葉でふいた特別の宴会場へ案内される。宴会は日本よりも派手で非常にひろい範囲の人々をよび、和洋折衷の料理をならべる。御馳走の白眉はハワイ人の料理人による豚料理だ。宴会場の外の穴のなかで焼石で蒸した豚肉である。宴たけなわになると、一世老人の謡曲がくさりある。新婚旅行は大い飛行機で他の島へ行く。大陸や日本まで行く人はあまりいない。



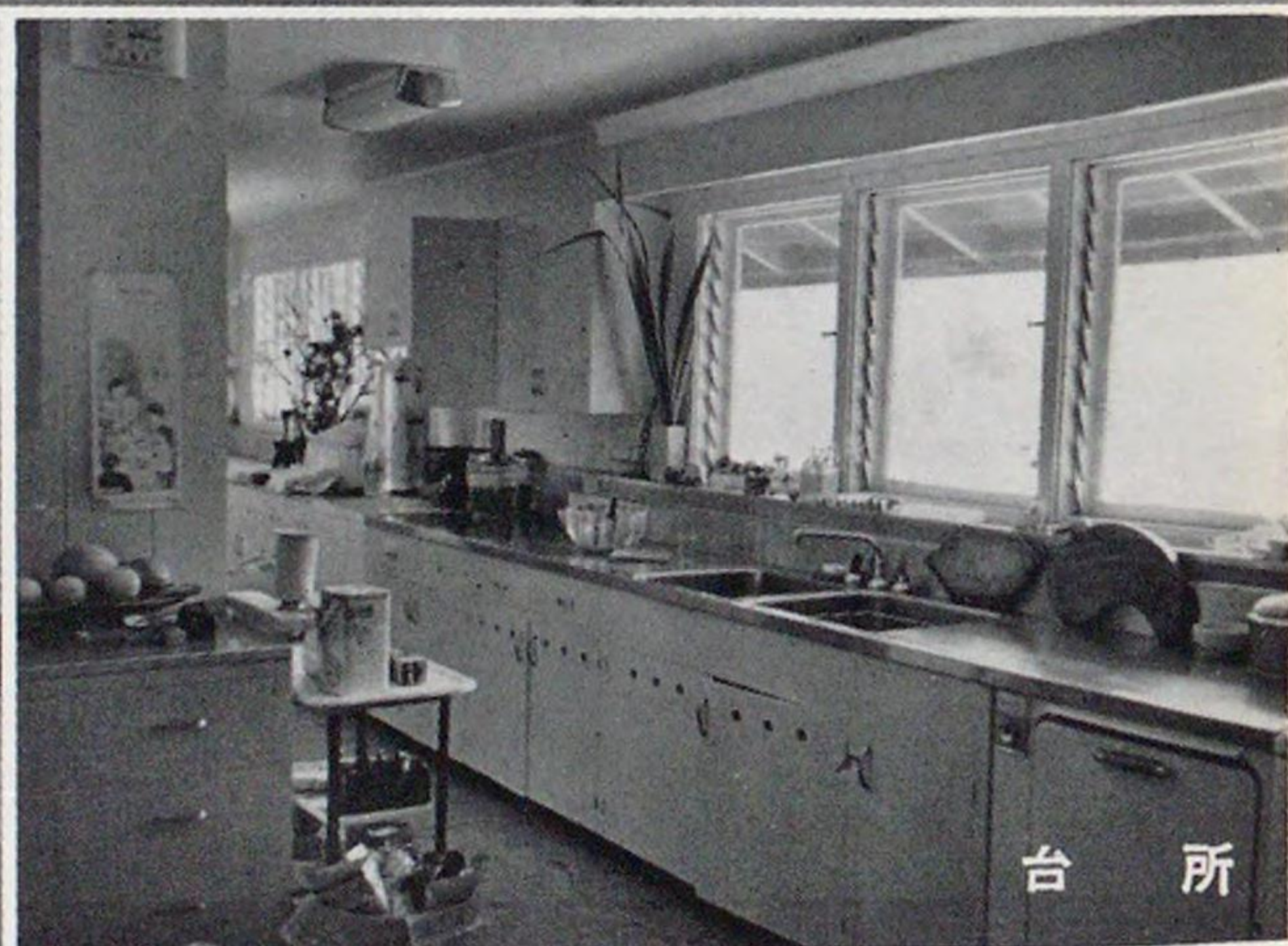




応接間



台所の片隅



台所



洗濯物の整理室



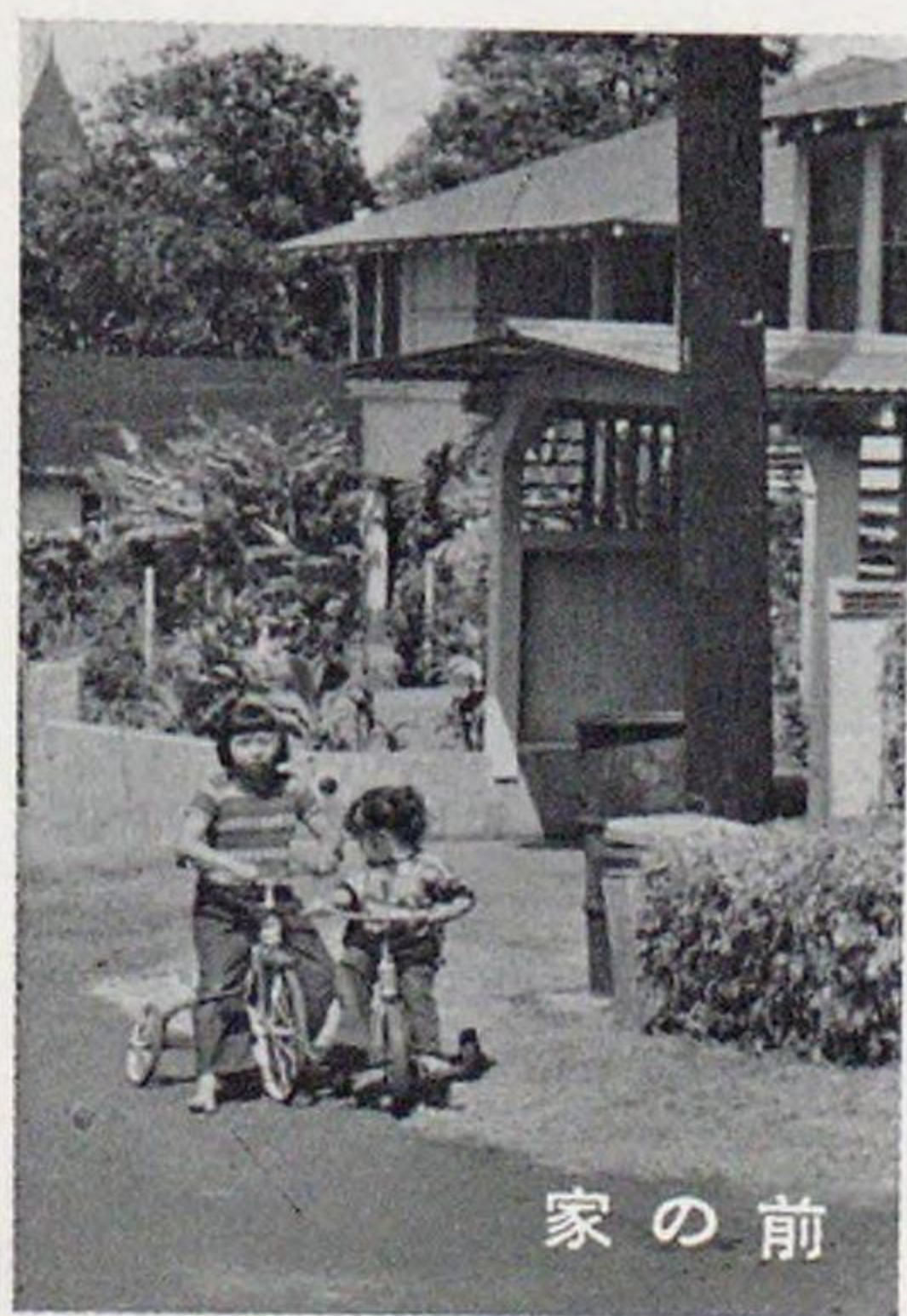
主人(オフィスで)

二世の家

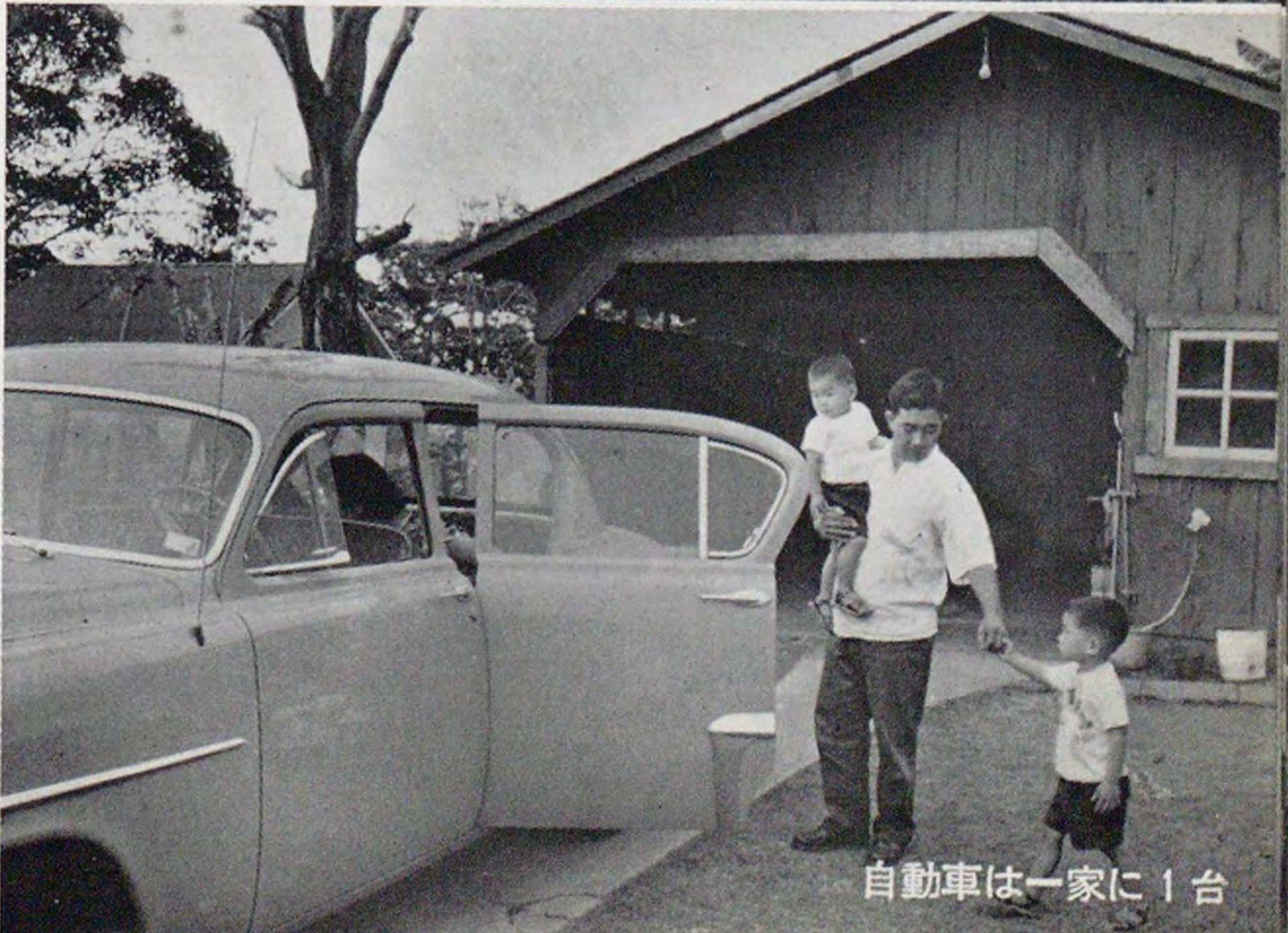
道を歩いても日系人の家は何となくわかる、とある人が話していた。どこかに日本的なおいがあるからだろう。とくに一世の家と二世の家とはすぐに区別できる。住宅事情がよいせいもあるが、生活様式の相違からも、二世は独立するとほとんど親と別居する。二世の家を訪れてまず最初に案内されるのは台所とバスルームと洗濯物の整理室。まったく西洋的に近代化した生活は、羨しいばかりだ。



二世の一家



家の前



自動車は一家に1台





仏壇のある部屋



居間



台所



風呂



主人

一世の家

一世の家をたずねてみると人間の生活というものゝは案外保守的なものだという気がする。台所の設備にしても洗濯や掃除の道具にしても便利なものはいくらかもあるのに、それを使おうとしない。あるいは日本的なものへの心残りがあるためだろうか、と考えるほどだ。一世と二世の間には確かに意識の上でもずれが感じられる。若い者は恩を知らない、年寄りの面倒をみない、ということでは何か新聞種になった事件が数年前にあったそうである。



靴・サンダル・ぞうり



一世の家(奥さん)



家の前で





新しい住宅地



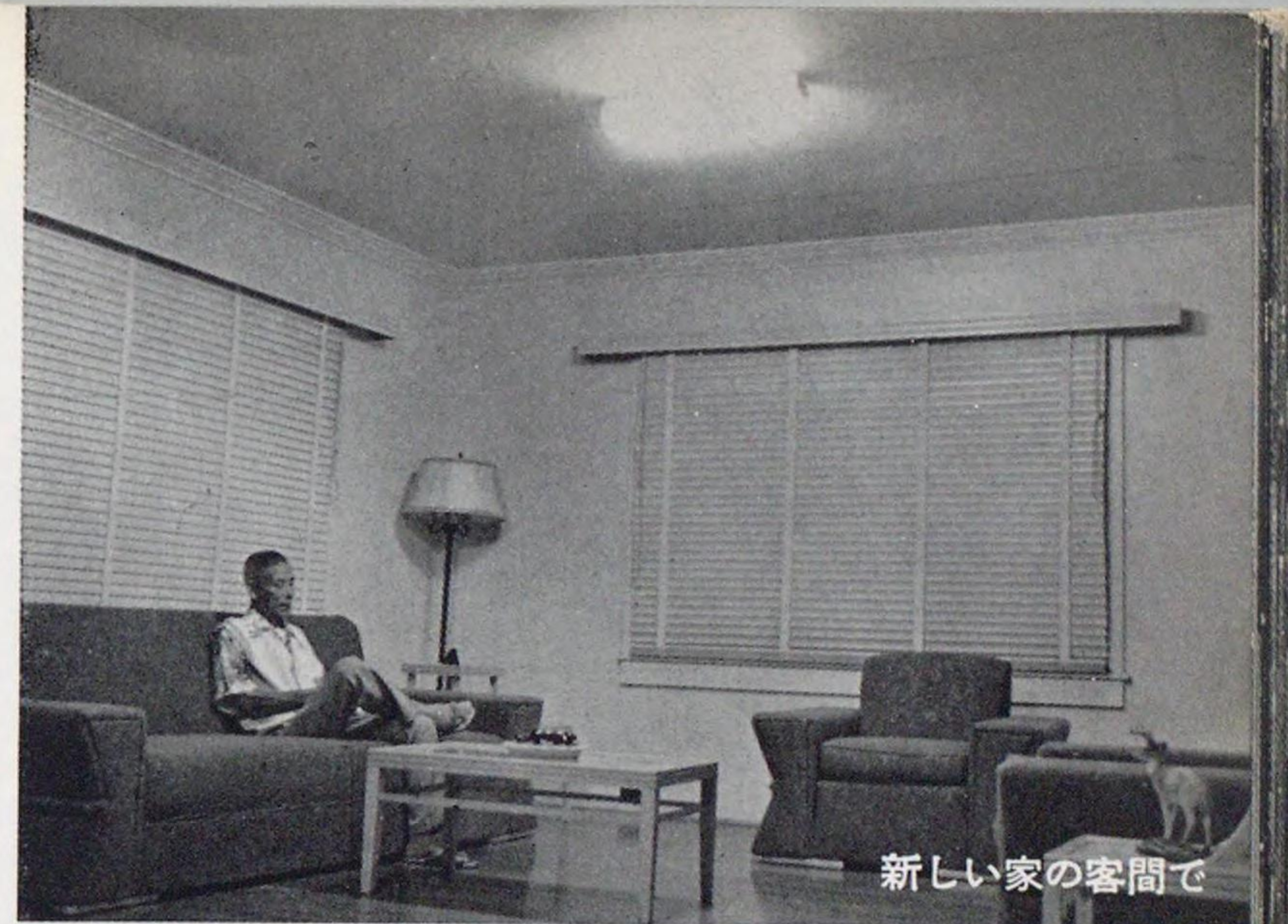
新しい家

ある一世の話

新しい家が建ち並び、商店や学校や病院なども出来ている今のワイルクの町がある場所は、つい数年前までは家一つない空地であった。ところが、今は古い方の町には殆ど人が住んでいない。古臭くなった家や設備を捨てて、町全体が引越しをしたのである。日本では考えられぬことだが、ハワイでは別に珍しいことでもない。その新しい住宅地の一軒で洋式のバスを日本式の風呂に改造していた。一世が息子のために家を建てたところ、その息子が戦死してしまい、自分が住むことになった。それで改造というわけである。とかく近頃は住みにくいと一世老はなげく。



古い住宅地



新しい家の客間で

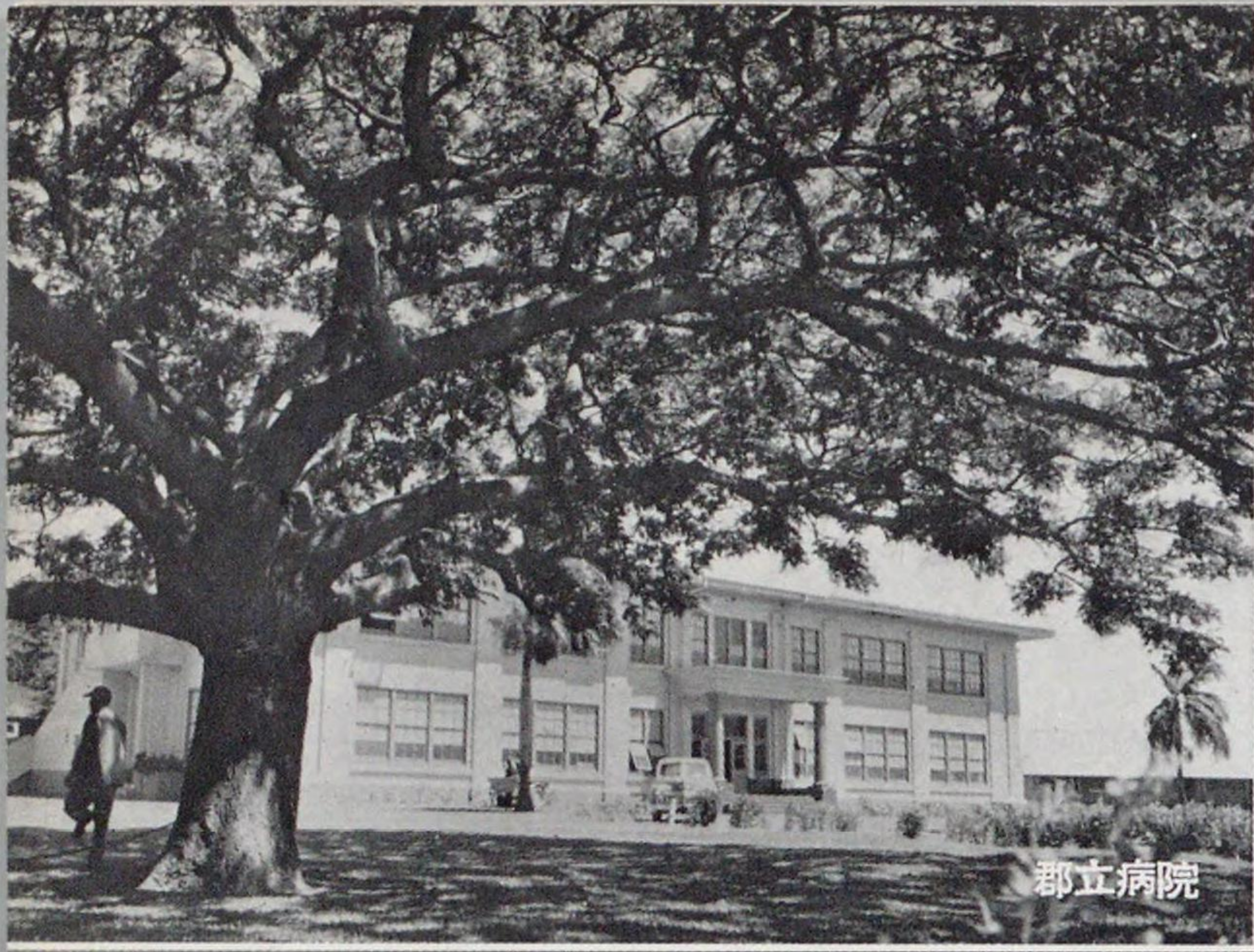


造りかえた日本式浴槽



そで垣に残る日本趣味

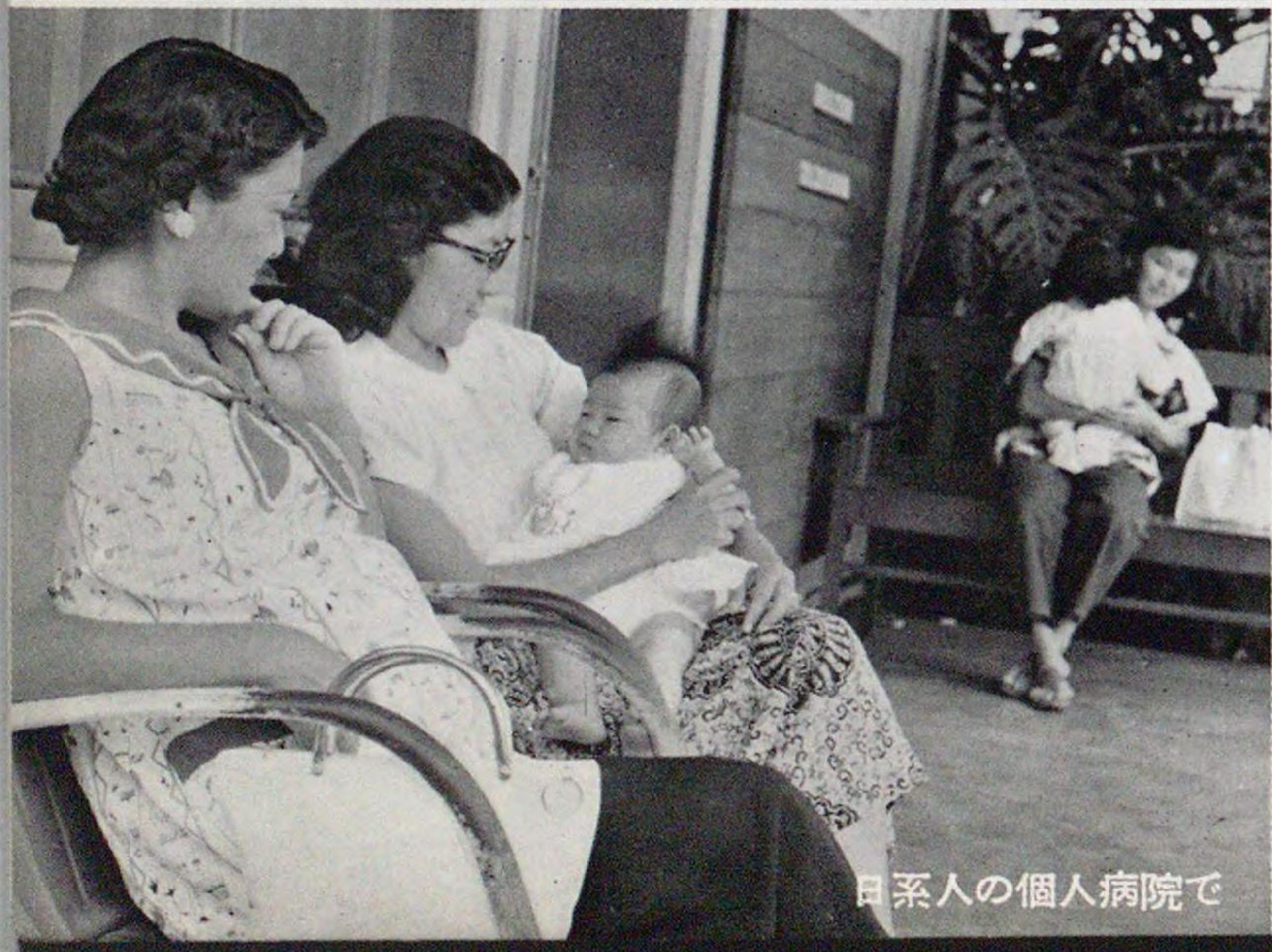




郡立病院



受付の主任看護婦



日系人の個人病院で



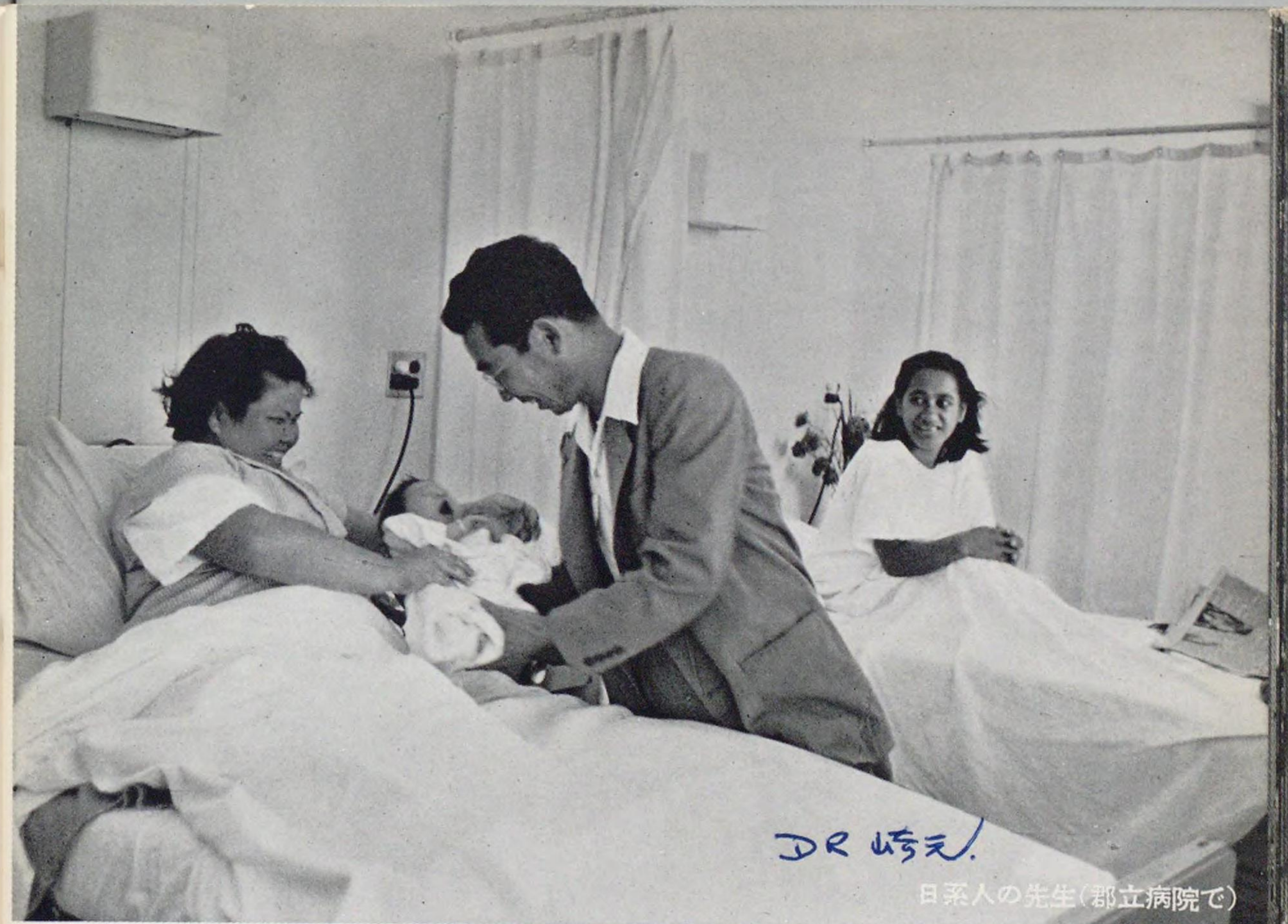
郡立病院の中

病 院

ハワイの保健衛生状態は世界でも一ばんよい方の一つだといわれる。1952年の幼児死亡率はスウェーデンに次いで世界で2番目に低かった。赤ん坊の98%は病院で生れた。たしかに病院の設備はととのっている。そこで日系人が自慢するのはハワイの医学に尽した日系人の功績が大きかったということだ。ホノルルにはハワイでも第一級の病院が日系人の手で建てられ、経営されている。歯医者と眼鏡屋は日系人が半数以上を占めている。また看護婦も日系人が多いという話である。



郡立病院



日系人の先生(郡立病院で)



父 親





養老院の最長老



庭と建物

### 養 老 院

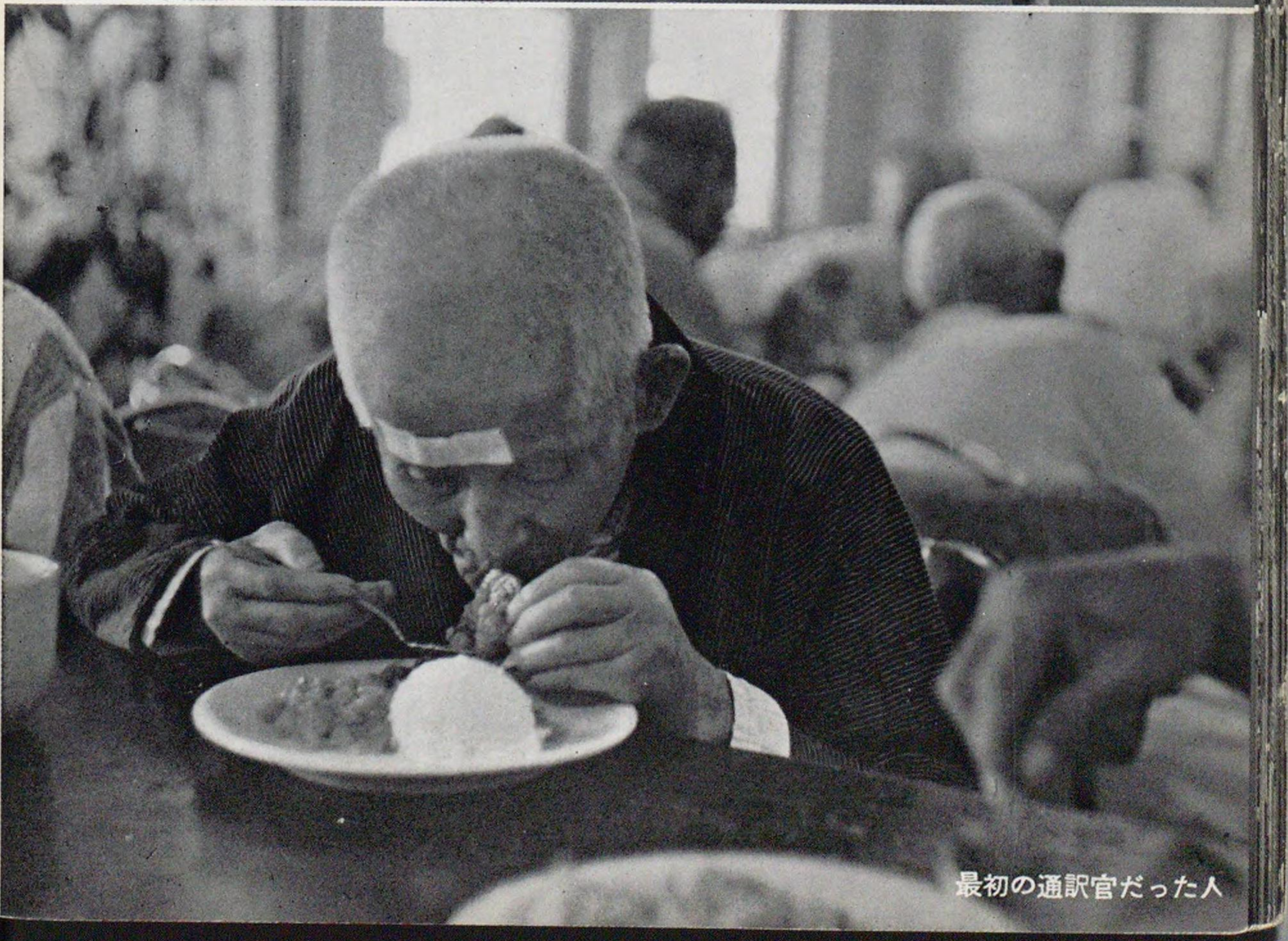
ハワイの老人は年々多くなっている。一つには老人の死亡率が減ったため、また一つには移住してきた人々が老年期に入ったためである。65歳以上の老人だけで見ると、その5割以上が日系人で、その98%が一世である。彼らの多くは設備のよい養老院で老後を送っている。皆明治時代にここへ渡り、ひどい血のにじむような苦勞を重ねて今日の生活を築いてきた人々である。



部屋で



食事に集まる老人達



最初の通訳官だった人





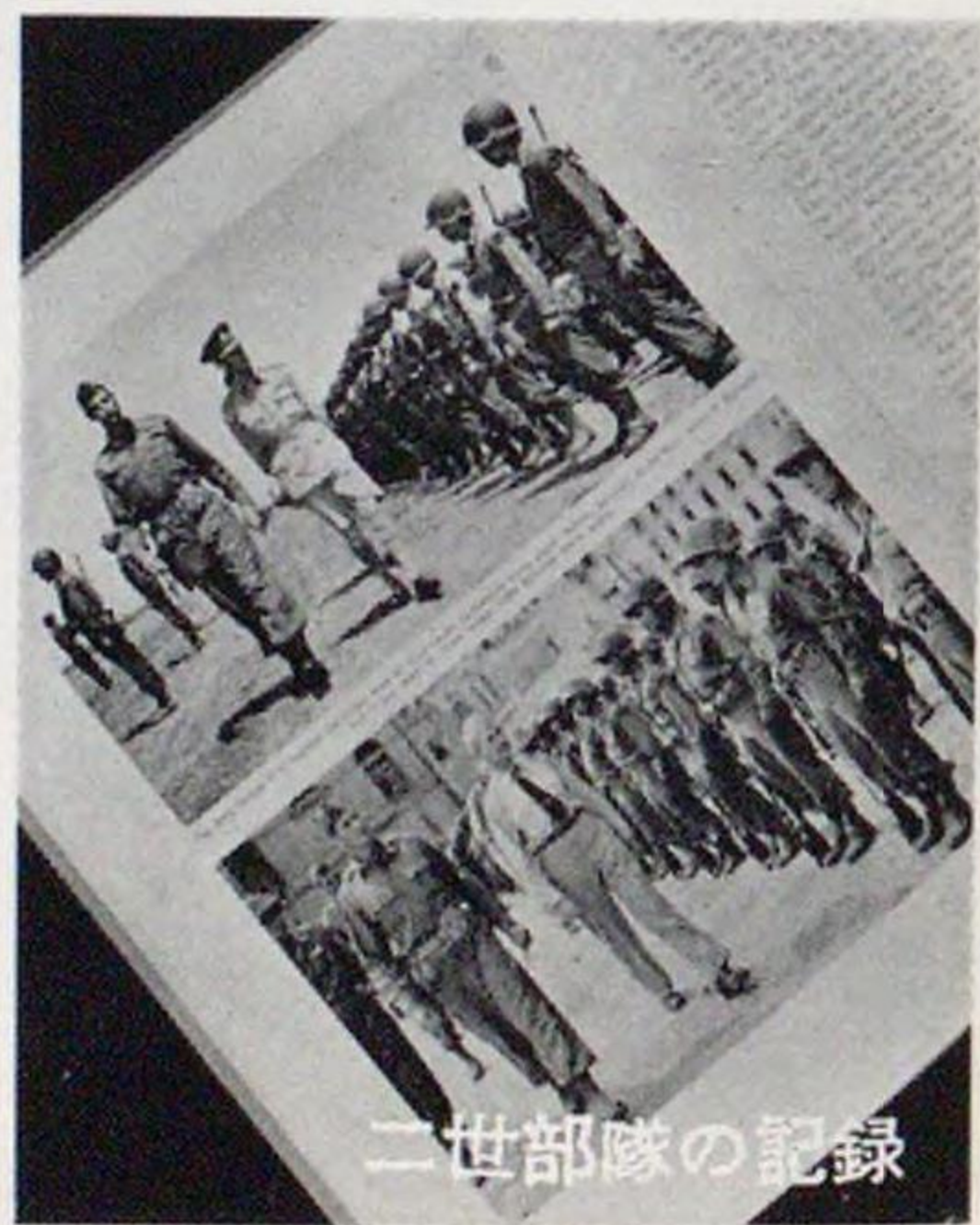
初期定着者の墓



二世部隊戦死者の碑

二つの墓地

ある青年の話によると戦後日系人はかえって住みよくなったという。理由は戦争を通じてアメリカ人が日本を見直したこと、も一つは二世部隊の活躍で日系人の合衆国への忠誠を確認したからだそうだ。今度の戦争で死んだハワイ青年のうち62%、506名が日系人だった。この部隊は総計1084個の勲章を貰った。二世部隊の墓地がその忠誠の記録なら今一つの苔むした墓地は何の記録というべきだろう。



二世部隊の記録



欧米風の広い墓地



和洋折衷の墓



# 岩波写真文庫目録

既刊		既刊		既刊	
1	木昆綿	43	化学織	82	新劇
2	南水洋の捕鯨	44	野の花一春一	83	郵便切手
3	魚の市場	45	金印の	84	出かいこの村
4	アメリカ人	46	出た土地	85	伊豆の漁村
5	アメリカカ	47	東京一大都会	86	奈良一東部一
6	雪の結晶	48	馬	87	奈良一西部一
7	写真	49	石	88	ヒマラヤ
8	紙の生	50	桂離宮と	89	上高地
9	蝶の一	51	日	90	電
10	鎌と	52	醬文	91	松江
11	動物園の	53	水辺の鳥	92	動物の表情
12	富士山	54	米	93	金の沢
13	雪	55	正倉院(二)	94	自動車の話
14	いかるがの里	56	石	95	薬師寺・
15	鉄川一隅田川一	57	千代田	96	唐招提寺
16	雲	58	歌	97	日本の人形
17	汽	59	高山の花	98	システィナ
18	動物園の鳥	60	波	99	礼拝堂
19	様式の歴史	61	京都御所と	100	美人画
20	銅山	62	二条城	101	日本の貝殻
21	ススキー	63	赤ちゃん	102	日本の話
22	ススキー	64	オーストラリア	103	戦争と日本人
23	京都一歴史的	65	ソヴェト連邦	104	佐世保
24	にみた一	66	能	105	ミケラン
25	力と運動	67	造	106	ジュロ
26	アメリカの	68	東京案	107	空からみた
27	農業	69	東平	108	大阪
28	アルプス	70	手宮	109	宗達
29	山	71	宮	110	飛騨・高山
30	奈良の大佛	72	佐	111	ゴッ
31	尾瀬	73	比	112	都案内
32	電	74	阿	113	一洛中一
33	野球の科学	75	信	114	京都案内
34	星と宇宙	76	貴山	115	一洛外一
35	蚊の観	77	縁起	116	寫
36	長野	78	針葉	117	熊
37	高野山	79	近代	118	東京湾
38	正倉院(一)	80	日本の民家	119	汽車の窓から
39	彫像	81	季節の魚	120	一東海道一
40			シャポテン	121	地図の知識
41				122	姫黄の
42				123	伊豆の大島
				124	伊豆の大島
				125	熊野路
				126	鳥獣戯画
				127	愛媛県
				128	やきもの町
				129	冬の登山
				130	埼玉県
				131	男鹿半島
				132	フランス
				133	古寺巡礼
				134	滋賀県
				135	白
				136	東京
				137	国立博物館
				138	千代田
				139	箱根
				140	細胞の知識
				141	四国遍路
				142	村の一年
				143	一秋田一
				144	セザンヌ
				145	石川
				146	琵琶湖
				147	仏陀の生涯
				148	香川
				149	日
				150	一1955年10月8日一
				151	練習船日本丸
				152	悲惨な歴史
				153	一ドイツ一
				154	ボッティチェリ
				155	東海道
				156	五十三次
				157	離された園
				158	松島
				159	家庭の電気
				160	アメリカの
				161	地方都市
				162	五島列島



193 194 195 196 197

新刊 奈良をめぐる 一空から一 子供は見る 雪舟 東京都 一新風土記一

B6判 64頁 写真平均200枚 定価各100円



ハワイからきた観光団。横浜港にて





本  
74

カフルイの港で



¥ 100

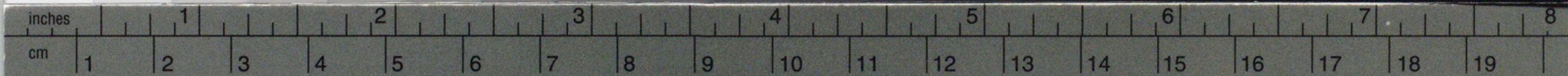


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

